

令和7年度 年 報

市立大町山岳博物館

目 次

	頁
令和 7（2025）年度の活動から	1
I 資料収集・保存管理事業	2
1 資料収集	2
2 資料保存管理	2
II 調査研究事業	4
1 調査研究	4
2 研究発表	4
III 教育普及事業	5
1 展示	5
2 教育普及活動	9
3 執筆・出版	20
4 広報・宣伝	21
5 大町博物館連絡会	22
6 安曇野アートライン推進協議会 美術館・博物館部会	22
7 大町山岳博物館友の会	22
8 ライチョウ会議	25
9 長野県山岳総合センターとの連携事業	25
IV 動植物飼育栽培繁殖事業	26
1 動物飼育繁殖	26
2 植物栽培繁殖	28
3 付属園整備	28
4 公益社団法人日本動物園水族館協会	29
V その他	29
1 各種委員等の委嘱他	29
2 アルプス動物園との友好提携協定の締結	29
3 信州大学山岳科学研究所との研究協力協定の締結	29
4 長野県環境保全研究所との連携・協力に関する協定の締結	30
5 ライチョウ類の飼育技術の提携に関する協定の締結	30
6 梅棹忠夫 山と探検文学賞への協力	30
VI 運営	31
1 組織および職員構成	31
2 市立大町山岳博物館協議会	31
3 利用者状況	33
4 令和 7 年度予算・決算	37
5 ミュージアムカフェ・ショップ	37
VII 関係条例規則等	38
1 市立大町山岳博物館条例	38
2 市立大町山岳博物館規則	40
3 大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会設置要綱	45
VIII 市立大町山岳博物館の使命	46
1 市立大町山岳博物館創立 60 周年を機に	46
2 平成 24 年度からの市立大町山岳博物館の基本理念	46
3 平成 24 年度からの市立大町山岳博物館の基本方針	46
IX 施設	49
1 敷地面積	49
2 本館建物	49
3 付属施設	50
X 利用案内	51

令和 7（2025）年度の活動から

館長 坂井 征洋

令和 7 年 5 月 22 日に、大町市教育委員会が発注した市立図書館の LED 化（照明設備）工事の入札を巡り、特定の業者側に予定価格などの入札情報を漏らした官製談合防止法違反（入札妨害）などの疑いで当時の博物館館長が長野県警に逮捕されるという不祥事が発生いたしました。令和 6 年度に続き不祥事が発生したことは大変遺憾です。このことを厳粛に受け止め、今後、二度と起こらないよう職員一同、博物館運営に努めて参ります。誠に申し訳ございませんでした。

令和 7 年度の活動につきまして、令和 6 年 1 月のボイラー煙道火災により、館内展示室等の暖房が行えなくなりました。加えて、冷房機器も盛夏を迎えた 7 月に不具合が生じ、急遽、業務用扇風機や冷風機で対応にする事態となり、この間、ご来館いただきましたお客様には、多大なご迷惑をおかけすることとなりました。このため、令和 7 年度は、空調設備改修工事を実施し、令和 8 年 2 月下旬の試験を経て稼働が可能となりました。この工事は、令和 8 年夏ごろに予定している新旧のキュービクルの交換をもちまして、竣工となりますが、現在、快適な環境のもとお客様にご観覧いただけているものと考えています。

続きまして、資料収集保管事業では、人文科学系において、例年、多数の寄贈を頂いております。今年度は大正末・昭和初期にヨーロッパ・アルプスで活躍した日本人登山家・浦松佐美太郎氏のご関係者より同氏が使用・旧蔵した登山具などをご寄贈いただきました。また、松本市在住の山岳ジャーナリスト・菊池俊朗氏からは、200 点を超える山岳関係資料をご寄贈いただきました。自然科学系においては、令和 6 年度に引き続き、高知県牧野植物園から 200 点の植物標本が到着し、うち 100 点を安曇野市豊科郷土博物館が収蔵しました。標本の交換は、県内でもほとんど例を見ないものであり、その経緯等は学芸員が所属する研究会の会誌に掲載される予定ですので参考にしていただければと思います。

教育普及事業といたしまして、昨年度より開催していた「小学校の生きもの探索記」の関連催しとして、実際に 2 つの小学校においてそれぞれ植物と鳥を対象とした観察会を行いました。参加児童はわずかでしたが、興味を持つ教諭の参加もあり、今後、授業等で役立てていただければと思います。特別展「イラストレーター神田めぐみ 山小屋イラスト原画展」では、原画のほか、山小屋の実測メモなどイラスト制作途中の資料や作画道具なども参考にあわせて展示し、来館者が展示を興味深く見入っている姿が印象的でした。また、関連催しとして、会期中に神田氏によるギャラリートークや小学生向けのワークショップ、神田氏とゲストにシェルパ斉藤氏を招いてのトークショーは多くの方にご来館頂きました。企画展「大町にも火山灰が降った?!」では、大町市にある中山高原に数十万年間の大町テフラ（火山灰）層が連続して見られる貴重な露頭が 2 か所現存し、これまで博物館が進めてきた調査研究の成果について紹介しました。期間中の関連催しである展示解説、現地見学会、室内講習会を通じて、博物館の実施する調査研究に深くご理解いただけたものと思われま。

ライチョウ飼育繁殖事業では、令和 6 年度に引き続き、環境省の第二期ライチョウ保護増殖実施計画に基づき中央アルプスで行われた「中央アルプスにおけるライチョウ野生復帰事業実施計画」に参加し、当館からは 3 羽を提供いたしました。この計画は本年度をもって終了となりますが、今後も環境省の事業に参画し、貢献して参りたいと考えております。

令和 7 年度の主な事業は以上です。

なお、平成 26 年の当館リニューアルの際に展示改修専門委員としてご指導いただき、また、博物館企画展におきましても総説のご執筆を賜るなど、博物館の発展にご尽力頂きました菊地俊朗氏が、山岳関係資料を当館にご寄贈いただいたわずか数ヶ月後にご逝去されました。長年にわたる温かいご指導と多大なるご尽力に心より感謝申し上げますとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

I 資料収集・保存管理事業

1 資料収集

(1) 新規収集資料

令和7年4月1日から令和8年3月31日の間に寄贈によって次の資料を収蔵した。

①寄贈による収集資料

内訳は、植物資料1件200点、人文科学系：山岳資料及び山岳図書資料12件465点である。

No.	受入日	資 料 名	数量	寄贈者	住 所
1	4月15日	山岳図書（南アルプスと其溪谷ほか）	38点	個人	東京都足立区
2	6月8日	山岳図書（アルプ合本Ⅰほか）	39点	個人	神奈川県相模原市
3	6月12日	登山用具（登山靴ほか5点）及び山岳図書（わが山旅ほか6点）	計11点	個人	愛知県一宮市
4	7月29日	ワカンジキほか	7点	個人	長野県長野市
5	8月8日	山岳図書（中国語の書籍ほか）	115点	個人	長野県長野市
6	8月27日	ヒマラヤ・ギャチュンカンなど海外山岳写真ほか	237点	個人	長野県松本市
7	10月12日	浦松佐美太郎使用・旧蔵 登山用具（ピッケルほか）ほか	10点	個人	アメリカ合衆国 ニューハンプシャー州
8	10月24日	全日本山岳連盟 1964年ヒマラヤ登山隊 ギャチュンカン関係資料（ピッケルほか）	3点	個人	東京都世田谷区
9	11月16日	高知県産植物標本 ※うち100点は安曇野市豊科郷土博物館へ移管	200点 ※	高知県立牧 野植物園	高知県高知市
10	1月27日	アルバム及びピッケル	計2点	個人	兵庫県芦屋市
11	2月5日	アルバム	1点		長野県大町市
12	2月19日	図書（信濃鐵道史ほか）	2点	個人	長野県大町市
13	3月11日	山岳図書(96年度 山学SKI同人 山我 楽巢 活動報告書ほか) 及び写真帳	計19点	個人	長野県千曲市

②交換による送出資料

令和7年12月14日に、牧野植物園から200点が到着し、標本庫を持つ県内の博物館・研究機関の学芸員・研究員等のほか、これらの登録や整理等に関係する方々に呼びかけ、点検を実施した。前回同様、100点は安曇野市豊科郷土博物館が収蔵した。

2 資料保存管理

(1) 収蔵資料

①自然科学系資料

分類名および点数		自然科学系 合計 18,644点・196ケース	
岩石・鉱物・鉱石、化石等（地質標本）	3,070点	哺乳類（剥製・骨格標本）	249点
	196ケース	鳥類（剥製・骨格標本）	699点
蘚苔類（乾燥標本）	674点	魚類（液浸標本等）	40点
維管束植物（液浸標本）	7点	両生爬虫類（液浸標本等）	14点
維管束植物（さく葉標本）	13,500点	貝・甲殻類（液浸標本など）	30点
		昆虫（標本ドイツ箱）	258点
		その他液浸標本（調査研究資料）	103点

②人文科学系資料

分類名および点数		人文科学系 合計 15,225点	
山岳	13,397点	寄託（山岳、美術）	403点
民俗	959点	《寄託内訳》 個人寄託 151点 ※うちピッケル関係 93点 団体寄託 252点 ※うち日本山岳会 249点、 大町市文化財センター 1点、長野県山岳協会 2点	
美術	253点		
美術（尾竹正躬関係）	201点		
歴史	12点		

③本館図書室に収蔵されている自然科学系図書資料

分類名および点数		自然科学系	合計
自然科学系一般図書資料	7,412 点	自然科学系一般AV資料	222 点
			7,634 点

④山岳図書資料館に収蔵されている人文科学系図書資料

分類名および点数		人文科学系	合計
人文科学系一般図書資料	32,319 点	人文科学系一般AV資料	287 点
山岳資料としての図書資料（注 ¹ ）	10,745 点		
			43,351 点

（注¹）④記載の山岳資料としての図書資料点数は、②記載の人文科学系の山岳資料点数に含む。

⑤収蔵資料の点数

総計 84,854 点・196 ケース（令和 8 年 3 月 31 日現在）

※昆虫標本（液浸標本および未標本作製資料を含む）については現在点検中

⑥現状と課題

a. 自然科学系

植物さく葉標本については、大町山岳博物館友の会サークル「花めぐり紀行」のメンバーに台紙へのマウント作業を依頼し、約 400 点の登録および配架が完了した。あわせてミュージアムネット（S-net）に情報提供を行った。

昆虫標本については、未整理のものが多数あり、今後整理・登録を行っていく必要がある。また、哺乳類・鳥類の資料をはじめとする動物資料の目録について、ホームページでの一般公開に至っていないことから、内容を精査し、順次掲載できるように準備を進めたい。

b. 人文科学系

昭和 26 年の開館以降の未整理の山岳資料（二次資料や文献資料も含む）及び民俗資料が多数あり、また、現在も年間を通じて新規の寄贈を受けており、毎年継続的に相当量の資料整理・登録作業の必要性が生じている。担当学芸員と事務員を兼務する資料整理員によって通年での作業を随時継続実施しているが、新規受入資料や過去の未整理資料の量に対し、整理作業が追い付いていない状況にある。登録博物館として博物館法に定める事業を実施していく中で、資料収集・保管は基礎的な事業に位置づけられており、博物館活動を行う上で、資料整理・登録業務は常時継続的に実施していくことが求められる。今後も引き続き、年度ごとに計画的・効率的に集中して整理作業を完遂させたい。

なお、山岳博物館では、これまで収蔵資料の目録が整備されていない状況であったため、平成 26 年度以降、人文科学系の収蔵資料目録を作成、当館公式ホームページ上で一般公開を行っている。公開する目録については PDF データとし、ホームページ制作委託業者によるメンテナンスにあわせて、最新のデータに毎年更新を行っている。今後は収蔵資料に関する情報公開をさらに進めるため、資料整理の徹底実施を図りたい。

資料整理と収蔵資料に関する情報公開に関し、将来的な課題として、当館収蔵資料（全分野）のほか、市文化財センターの収蔵資料（考古・歴史・民俗資料）と生涯学習課で管理する美術資料を含め、市教委が保管する市所有の各種資料の一括管理について、専門業者が手掛ける博物館・美術館収蔵資料の情報処理システム導入（目録の記録内容のテキストデータや収蔵資料の記録写真の画像データの公開も含め）の必要・有効性及び効率性などを関係課・係と協議・研究する必要がある。

(2) 保存管理

資料の保存にあたっては、忌避剤やフェロモントラップを定期的に入れ替え、害虫の進入を予防する防虫対策を行うとともに、夏期に空調を稼働して温湿度を調節して防黴等の対策を行ったほか、外気との接点を目止めするなどの防塵対策を行うことで、展示・収蔵環境の管理を随時行った。

寄贈資料等について、収蔵庫や山岳図書資料館への配架に際し、事前に浸透性の高いフッ化スルフル系製剤（ヴァイケーン薬剤）を用いた専門業者による 24 時間の包み込み燻蒸を本年度も行った。

展示室や収蔵庫を含め、資料の保存管理環境に関し、博物館レベルの水準に近づけるための維持管理にともなう日常業務の作業量増加や、施設の老朽化に伴う対処業務の事務量増加への対応を検討するとともに、将来を見通した抜本的な施設改修計画を策定する必要がある。同時に、事業全体の中での展示・収蔵環境の維持管理の位置づけを再確認するとともに、分野ごとの担当業務量のバ

ランスを考慮した上で、PDCA サイクルや D-ODA ループによる個別事業と事業全体の再評価と業務の効率化を一層図るなどの業務改善を継続実施することが重要である。

Ⅱ 調査研究事業

1 調査研究

(1) 高山植物の生活史に関する研究（担当：千葉悟志）

白馬岳において、7 月 23～25 日及び 9 月 1～3 日にクルマユリ並びにイワギキョウ及びチシマギキョウを対象に訪花昆虫の撮影及び行動を記録した。

(2) ライチョウの飼育・繁殖技術確立を目指した研究（担当：岡本真緒・唐澤紗波・渡邊咲晴・瀧沢有純・伊澤美琴・宮代大輝）

環境省のライチョウ保護増殖事業取り組みの一環として、ライチョウ飼育園館や、研究機関（日本獣医生命科学大学、岐阜大学、中部大学、大阪公立大学等）と連携しながら共同研究を行っている。本年度は前年度に引き続き、環境省主導の中央アルプスにおけるライチョウの野生復帰事業に参画し、繁殖させた雛を対象に野生型腸内細菌の定着及びアイメリア原虫の投与を行った後、3 羽の雛について中央アルプスへの野生復帰を実施した。野生型腸内細菌の定着を行うための手順として、人工孵化した雛に、野生下ライチョウ由来の菌末の投与と、高山植物の給餌を行った。この事業の中で取得した、高山植物をはじめとする餌の摂食量に関する記録を研究紀要第 11 号にて報告した。また、野生型腸内細菌およびアイメリア原虫の定着についての検査協力等、野生復帰個体創出のための飼育方法の確立に寄与した。

今後も関係機関と連携を図り、ライチョウの保全事業に必要と考えられる調査研究を行っていく。

(3) 白馬連峰周辺の石仏及び蓮華鉢山跡調査（担当：関悟志）

常設展示にかかわる事柄について、写真画像等の情報収集・蓄積のため、白馬連峰周辺の石仏及び蓮華鉢山跡について、令和 7 年 8 月 29 日（金）・30 日（土）に白馬岳方面（梅池高原～白馬山荘泊～鉢山道経由～蓮華温泉）で現地確認を行った。

(4) 信越新道の道筋調査（担当：関悟志）

常設展示にかかわる事柄について、写真画像等の情報収集・蓄積のため、信越新道の道筋について、令和 7 年 9 月 9 日（火）～11 日（木）に針ノ木谷方面（扇沢～針ノ木小屋泊～針ノ木谷～平ノ小屋泊～黒部ダム～扇沢）で現地確認を行った。

(5) 大町市内に現存する近世の山伏に関する資料調査（担当：関悟志）

本調査は、大町市内に現存する近世の山伏に関する資料である社館ノ内・本明院、平野口・鏡覚院の旧蔵資料について資料確認や文献調査を行った。調査結果は、本年度研究紀要において資料として掲載した。

2 研究発表

(1) 「市立大町山岳博物館 研究紀要 第 11 号」

①資料

- ・大町市周辺に露出する大町テフラ層について（その 3）（竹村健一）

- ・飼育下におけるライチョウ（、、、、、、、）の育雛期の摂食量の変化

（岡本真緒・渡邊咲晴・瀧沢有純・伊澤美琴・唐澤紗波・前島萌恵）

- ・大町市内に現存する近世の山伏に関する資料

—（社館ノ内・本明院、平野口・鏡覚院の旧蔵資料）—（関悟志）

②その他

上記以外の他誌掲載の論文・報告等（千葉悟志・岡本真緒・竹村健一）

Ⅲ 教育普及事業

1 展示

(1) 常設展示

メインテーマを「北アルプスの自然と人」とし、「自然と人とが共生する山岳文化」を山岳博物館からのメッセージとして伝える。

- ① 展示テーマおよび展示資料点数 総計 1,028 点（令和 8 年 3 月 31 日現在）
内訳（自然科学系 合計 462 点、人文科学系 合計 566 点）

展示テーマ	資料 点数※ ¹	展示テーマ	資料 点数※ ¹
3 階 展示室 「あなたと山のかかわり 展望ラウンジ」ゾーン			計 105 点
大町のプロフィール	24 点	大町の空からマップ	1 点
後立山連峰のパノラマ	1 点	山頂の石たち	6 点
北アルプス後立山連峰の山々	20 点	雪形の伝承	27 点
山の伝説	7 点	「北アルプスの自然と人」映像	1 点
つながりプロローグ	18 点		
2 階 ホール 「山の成り立ち」ゾーン			計 85 点
水の惑星・地球 46 億年の生い立ち	37 点	日本列島の生い立ち	1 点
驚きのフォッサマグナ	18 点	驚きの北アルプス	24 点
「北アルプスの生い立ち」映像	1 点	北アルプスとフォッサマグナ	4 点
2 階 展示室 「山と生きもの」ゾーン			計 368 点
立山の氷河・カクネ里雪渓・いまを 生きる生物	3 点	里山から高山までの生物	249 点
ニホンカモシカ	9 点	ライチョウ	62 点
溪谷の生物	9 点	湖の生物	18 点
湿原の生物	14 点	ライチョウの捕食者	4 点
1 階 展示室 「山と人 北アルプスと人とのかかわり」ゾーン			計 439 点
山の魅力	7 点	北アルプスと人とのかかわり年代記	7 点
峠を越える ―針ノ木峠の歴史―	39 点	山に暮らす ―山の恵みと山村の暮らし―	87 点
山に祈る ―山の信仰―	20 点	「山と人」映像	1 点
大町山岳人列伝	10 点	山を測る ―測量―	5 点
山を調べる ―博物学―	23 点	山を描く ―絵画―	8 点
山を写す ―写真―	21 点	山で学ぶ ―日本の近代登山―	155 点
山に住まう ―山小屋の変遷―	28 点	登山の道具	23 点
山とのかかわりの窓		つながりコラム	5 点
1 階 エントランス・ホール			計 8 点
「北アルプスの自然と人」導入	1 点	山とわたしたちの未来	
新・対山館サロン	1 点	こどもひろば	6 点
1 階 特別展示室 「山と美術 ―山岳風景画とウッドシャフトピッケル―」※ ²			計 23 点
山岳風景画	18 点	ウッドシャフトピッケル	5 点

※¹ 点数には、実物資料のほか、写真・図表グラフィックなどの図版資料と映像資料を含む。

※² 特別展示室の展示については、特別展・企画展開催時には各テーマで展示替えを行う。

②音声ガイドシステムのモニター（担当：千葉悟志）

令和 6 年 7 月 1 日より実施。館内展示ほか、付属園で展示する植物の紹介、今年度初めての試みとして、企画展「小学校の生きもの探索記」の解説にも導入した。

(2) 企画展示・特別展示

①企画展「小学校の生きもの探索記」（担当：千葉悟志）

a. 会 期：令和 7 年 3 月 9 日（日）～5 月 10 日（土） ※開催日数：延べ 69 日間

b. 会 場：市立大町山岳博物館 特別展示室

c. 概 要：自然というと、学校や家とは離れた場所にあると思う方もいるかもしれないが、学校に

は生け垣や花壇、池やそれにつながる流路があるほか、周囲に果樹園や田畑などの環境もあり、そこには、いろいろな生き物が生活していて、自然観察には、うってつけの場所である。

そこで、本展では日ごろから、自然に触れ、解説する機会が多い博物館学芸員や地域に根差し観察を続ける研究者が、小学生のみなさんに対してであれば「これは、紹介したい」という学校や家で観察できる事柄について、それぞれの視点で紹介し、学校では先生や友人と、家庭では保護者等とともに身近な自然を楽しむきっかけづくりとすることを目的に開催するものである。

d. **展示構成**：実物資料 45 点、パネル（写真・図含む）19 点を展示し解説した。

第一部 ここ注目～・・・各学校や家庭で観察可能な事柄について各執筆者が解説。

第二部 学校で見られる鳥を調べる・・・当館学芸員が季節を通じて観察した鳥について環境を含めた解説。

第三部 学校で見られる昆虫を調べる・・・当館学芸員が季節を通じて観察した昆虫について環境を含めた解説。

第四部 標本をつくろう・・・標本の重要性和植物や昆虫の標本のつくり方を紹介。

e. **観覧者**：4,095 人（有料 3,543 人、無料 1,928 人）

f. **所見**：アンケートに参加した約 7 割が市外・県外からの観光客で、市内の来館者は 2 割ほどであった。市民の少なかった原因として、あまりにもテーマが普通すぎて興味関心を持てなかった可能性が考えられた。また、会期が卒業式や入学式のほか、学校の先生においては異動時期と新学期が重なったことも大きな要因として考えられる。小学生を対象とした場合、博物館で行われる連携授業の増える秋（9～11 月）とし、併せて見学をしてもらうことで有効性が高まるものと考えられる。

一方、観光客は本企画展テーマについて、「特に関心があった」と「関心があった」が 6 割弱あり、観光客であっても興味関心を引くことができたと考えられる。展示方法について、8 割弱が「全体的によかった・部分的によかった」との意見で、「よくなかった」とした 1 人も、展示の隅々を見た感想を述べていることから一定の評価を得たと判断できる。

j. **関連事業**

ア **ギャラリートーク**（延べ 2 日・全 4 回）

- ・期 日：令和 7 年 3 月 9 日（日）・4 月 20 日（日）
- ・時 間：1 回目・・・午前 10 時～ 2 回目・・・午後 2 時～ ※1 回の所要時間は 20 分程度
- ・場 所：市立大町山岳博物館 特別展示室
- ・概 要：展示の見どころなどを解説。
- ・参加者：延べ 27 人

イ **さんばくゼミナール 特別授業「学校や家での楽しい観察－植物を中心に－」**

- ・期 日：令和 7 年 4 月 27 日（日）
- ・時 間：午前 9 時 30 分～午前 11 時 30 分
- ・場 所：市立大町西小学校
- ・講 師：千葉悟志（山岳博物館学芸員）
- ・概 要：本企画展解説書を参考図書に、開花している植物の花のつくりや昆虫との関係、球果について実物を観察しながら解説。
- ・参加者：参加者 12 人（大人 9 人、子ども 3 人）

ウ **さんばくゼミナール 特別授業「学校や家での楽しい観察－鳥を中心に－」**

- ・期 日：令和 7 年 5 月 10 日（土）
- ・時 間：午前 6 時 30 分～午前 8 時 30 分
- ・場 所：大町市立美麻小中学校
- ・講 師：栗林勇太氏（信州野鳥の会）
- ・概 要：学校の敷地内は、大町市では珍しいニュウナイスズメを観察できるスポットで、このほか、林道を歩きながらの観察も実施。鳥の生態を含め講師から解説を受け学んだ。
- ・参加者：参加者 10 人（大人 6 人、子ども 4 人）

②特別展「イラストレーター神田めぐみ 山小屋イラスト原画展」（担当：関悟志）

a. **会 期**：令和 7 年 6 月 14 日（土）～9 月 7 日（日） ※開催日数：延べ 90 日間

b. **会 場**：市立大町山岳博物館 特別展示室

c. **概 要**：イラストレーターの神田めぐみ氏（神奈川県在住）が作画した北アルプスの山小屋のイラスト原画約 40 点を展示。これらは、2024 年 7 月に発行された単行本『シェルパ斎藤の山小屋 24 時間滞在記』（山と溪谷社）に収録されたイラストの原画。この単行本は、山岳雑誌『PEAKS』（樫

出版社)に連載された全国の山小屋を紹介した文・イラストをまとめたもので、文は松本市出身の紀行作家でバックパッカーのシェルパ斉藤氏(本名 斉藤政喜氏)氏が執筆し、その挿絵として山小屋内部の展開図・俯瞰図を神田氏がイラストに描いている。原画のほかに、山小屋の実測メモなどイラスト制作途中の資料や作画道具なども参考にあわせて展示。本展開催にあわせ、関連催しとして会期中に神田氏によるギャラリートークや小学生向けのワークショップのほか、神田氏とゲストにシェルパ斉藤氏を招いてのトークショーを開催。

d. 観覧者：8,838人(有料7,698人、無料1,140人)

e. 初見：神田氏が描いた北アルプスの山小屋内部の展開図・俯瞰図をイラストにした原画展を実施することで、大町市周辺の山小屋を広く知っていただき、山岳文化のひとつである山小屋に関する情報を発信することで博物館を中核とした山岳文化都市・大町市の魅力を高めることができた。

f. 関連事業

ア ギャラリートーク(延べ2日・全4回)

- ・期 日：令和7年6月14日(土)・8月10日(日)
- ・時 間：1回目…午前10時～ 2回目…午後2時～ ※1回の所要時間は20分程度
- ・場 所：市立大町山岳博物館 特別展示室
- ・概 要：イラストレーターの神田氏が展示の見どころなどを解説。
- ・参加者：延べ91人

イ トークショー「神田めぐみ・シェルパ斉藤 山小屋を語る」

- ・期 日：令和7年7月13日(日)
- ・時 間：午後2時～午後3時 ※終了後、サイン会実施(30分程度)
- ・場 所：市立大町山岳博物館 特別展示室
- ・話 者：シェルパ斉藤氏(紀行作家、バックパッカー)、神田めぐみ氏
- ・概 要：山小屋での取材の裏側や山小屋にまつわるエピソードのほか、今後の山小屋や登山についての思いなどについて、お二人にお話しいただいた。終了後、出版単行本へのサイン会を実施。
- ・参加者：参加者34人(大人32人、子ども2人)

ウ ワークショップ「神田めぐみ 山のイラスト教室」 ※「こども夏期だいがく」に位置付けて実施

- ・期 日：令和7年8月11日(月・祝)
- ・時 間：午前10時～正午
- ・場 所：市立大町山岳博物館 講堂ほか
- ・講 師：神田めぐみ氏
- ・概 要：原画の作者である神田さんを講師にお迎えしてのイラスト教室。参加者の子どもたち自身が泊まってみたい夢の山小屋をそれぞれ描いた。
- ・参加者：小学生5人

③企画展「大町にも火山灰が降った?!」(担当：竹村健一)

a. 会 期：令和7年9月13日(土)～12月7日(日) ※開催日数：延べ86日間

b. 会 場：市立大町山岳博物館 特別展示室

c. 概 要：今のところ大町市に被害を及ぼすような活火山は近くにないが、数十万年前に降った火山灰が大町市内にも堆積している場所がある。しかしながら、市民にはあまり知られていない。中山高原には数十万年間の大町テフラ(火山灰)層が連続して見られる貴重な露頭が2か所のみ現存している。この”大町”の名に関する火山灰層について紹介し、調査・研究することでどのようなことがわかるのか、またそのことから今後どのようなことを考えていくべきなのかを考えていただく機会とする目的で開催する。

d. 展示構成：パネル19枚、実物(岩石・火山灰・鉱物等)45点、器具類25点、顕微鏡5台

火山にかかわる用語解説を導入に取り入れ、大町に降った火山灰の特徴や特性を調査分析結果および実物を展示して解説する。火山灰の噴出源がわかるものについては過去の研究成果と合わせて、現地における噴出物の現状について解説する。また、現在活動している火山と防災対策についても触れる。さらに調査・分析の手法や道具の紹介と小学生を対象にした授業実践の様子も紹介する。

e. 観覧者：5,489人(有料4,629人、無料860人)

f. 所 見：地質の研究者やマニア的な方以外にはあまり知られていない大昔の火山灰について、大町市内にも厚く堆積しており、どのような性質のものなのかを実物をまじかに見ながらさらに

は顕微鏡レベルで知っていただけるまたとない企画であったと思われる。アンケート結果からは、企画展を知らずに来館した方も展示見学するうちに面白さを感じていただいたようであり、テーマについては8割の方が、展示方法や資料については7割の方から高評価を得ている。また、岩石などの実物を直接見られたり、触れられたことも好印象に受け止められていたようである。一方、展示内容が難しかったとの回答が14%あり、自由記述の欄においてもタイトルを大きくするなど展示方法の工夫を望む声や子ども向けの展示を期待する声も複数見られ、改善や工夫が求められる。

g. 関連事業

ア 展示解説（延べ3日・全6回）

- ・開催日：令和7年9月20日（土）・11月15日（土）・12月6日（土）
- ・時 間：午前10時～・午後2時～（所要時間各回20～30分）
- ・場 所：市立大町山岳博物館 特別展示室
- ・参加者：計25人（大人）
- ・概 要：展示の見どころなどを担当者が解説。

イ 現地見学会

- ・開催日：令和7年10月18日（土）
- ・時 間：午前10時～11時30分
- ・場 所：中山高原（一般廃棄物処分場跡地）
- ・参加者：10人（大人9人・中学生1人）
- ・概 要：大町テフラ層の露頭を現地で見学し、担当者が解説。その後各々で火山灰試料を採取。

ウ 室内講習会

- ・開催日：令和7年11月22日（土）
- ・時 間：午前10時～正午
- ・場 所：市立大町山岳博物館 講堂
- ・参加者：16人（大人15人・中学生1人）
- ・概 要：大町テフラ（火山灰）から鉱物を洗い出し、顕微鏡で観察。担当者が指導。

- h. 関連印刷物**：解説書（A4判）1,500部印刷。広報用リーフレット（A4判、両面カラー）2,000部、広報誌『山と博物館』特集記事掲載9,000部を印刷したほか、当館公式ウェブサイトで企画展特集ページを組むなどして広報を行った。

(3) さんばく研究最前線 ―北アルプスの自然と人 トピックス―（担当：岡本真緒）

山岳博物館2階ホールにおいて、博物館からの最新の研究成果や話題性のある情報をパネルにして、3ヶ月ごとに内容を入れ替えながら、来館者の皆様に展示をご覧いただくコーナーとして、平成26年の展示改修より開始されたパネル展示。博物館での展示後、一部は八坂公民館で展示を行った。

なお、パネル展にあわせて、展示期間中に発行する広報誌『山と博物館』に展示内容を紹介する特集ページを掲載し、展示をご覧いただけなかった方々にも情報提供を行った。

①テーマ「令和6年度のライチョウ ―野生復帰&里におりたライチョウ―（担当：岡本真緒）

- a. 会 期：令和7年4月1日（火）～6月29日（日）
- b. 掲載誌：『山と博物館』2025春号（第70巻第1号）

②テーマ「収蔵資料から見る戦時下の登山 ―戦後80年に際して―（担当：関悟志）

- a. 会 期：令和7年7月1日（火）～9月30日（火）
- b. 掲載誌：『山と博物館』2025夏号（第70巻第2号）

③テーマ「帯磁率」は全国とつながるツール？（担当：竹村健一）

- a. 会 期：令和7年10月1日（水）～12月9日（火）
- b. 掲載誌：『山と博物館』2025秋号（第70巻第3号）

④テーマ「分からないことだらけの高山植物」（担当：千葉悟志）

- a. 会 期：令和8年1月27日（火）～3月31日（火）
- b. 掲載誌：『山と博物館』2025冬号（第70巻第4号）

(4) 移動展示等

①令和7年度地域発元気づくり支援事業

「安曇野アートラインから AR (拡張現実) アートを発信します!!」への参加協力 (担当: 関悟志)

- a. 主 催: 安曇野アートライン推進協議会
- b. 会 期: 令和7年10月1日(水)～11月30日(日)
- c. 会 場: 安曇野アートライン推進協議会加盟館のうち当館を含む AR 作品公開館 14 館
- d. 概 要: AR (Augmented Reality) とは、現実の空間にバーチャルの視覚情報を重ねて表示することで、目の前にある世界を仮想的に拡張する技術。この技術を活用した新しいかたちの芸術を楽しんでいただくために、各館で制作した AR 作品を展示。当館では、担当学芸員制作による AR 作品を入口横の外壁にて無料でご覧いただいた。なお、作品鑑賞には専用アプリのダウンロードが必要で、方法などの詳細をあわせて案内するとともに、期間中、2 館以上の有料入館者に、特典としてオリジナルグッズ (ステッカー) を進呈した。

②「第21回 安曇野アートライン展」への参加協力 (担当: 関悟志)

- a. 主 催: アルプスあづみの公園管理センター
- b. 共 催: 安曇野アートライン推進協議会
- c. 会 期: 令和7年11月29日(土)～12月21日(日)
- d. 会 場: 国営アルプスあづみの公園堀金・穂高地区 あづみの学校多目的ホール (安曇野市)
- e. 概 要: 安曇野アートライン推進協議会に加盟する美術館・博物館の作品等を一堂に展示し、各館所蔵の美術作品の鑑賞等を通して、北アルプス山麓でアートの世界を体感していただいた。本年度、当館からは牧潤一のペン画プリント作品 5 点を出展。また、本展会期中、あづみの公園とアートライン加盟館の利用促進を目的として各館を巡る「アートライン展スタンプラリー」があわせて実施され、当館も参画し、抽選で当選する景品として当館招待券 5 枚を提供した。

2 教育普及活動

(1) 学習会等の開催

①令和7年度 大町山岳博物館友の会 総会記念講演会

「見たことのないハナバチの世界 —安曇平のハナバチ調査—」(担当: 関悟志)

- a. 主 催: 大町山岳博物館友の会
- b. 共 催: 市立大町山岳博物館
- c. 開催日: 令和7年4月13日(日)
- d. 時 間: 午後1時30分～午後3時30分
- e. 場 所: 市立大町山岳博物館 講堂
- f. 対 象: どなたでも 定員 40 人
- g. 参加者: 42 人 (一般参加者 14 人・友の会会員 28 人)
- h. 講 師: 腰原正己氏 (友の会会員、元小学校理科教諭)
- i. 概 要: 大町山岳博物館友の会では、博物館との共催事業として、市民や地域住民、友の会会員向けに、総会にあわせて例年、記念講演会を企画している。毎回、各分野に精通した講師を招いて、北アルプスとその山麓の自然や歴史などに関する講演を行うことで、地域の自然や歴史への興味・関心を高めていただくとともに、友の会活動について広く知っていただく機会としている。
本年度は、理科教諭として長年ご活躍され、当地域の自然科学に精通されている友の会会員の腰原正己氏を講師にお招きし、身近なハチのひとつ「ハナバチ」に関して講演いただいた。講師が住む安曇野市周辺で観察できたハナバチの仲間について詳しくご紹介いただき、身近な自然を知る良い機会となった。講演会の後半は、こうした市民レベルの調査研究である市民科学 (シチズンサイエンス) から得られる学びや可能性について、友の会の活動紹介も交えて参加者全員で考えた。
- j. 所 見: 例年は事前申込み制としていたが、参加要件を低くして少しでも参加しやすくするために事前申込の必要なしとして今年度は実施した。想定参加者は 30～40 人を予想しており、結果としてほぼ想定枠通りの参加者となった。このことやアンケート結果から、事業目的の対象者の興味・関心をひくことができたと考える。なお、前年度までは当館主催で友の会が共催して実施し、講師謝礼の支出は当館で行っていたが、友の会総会記念講演会ということから、実施主体の妥当性について検討し、今年度からは、友の会主催で当館が共催し、講師謝礼の支出は友の会で行うこととした。

②ふぞくえんまつり（担当：岡本真緒・千葉悟志・唐澤紗波・渡邊咲晴・瀧沢有純・伊澤美琴）

a. 会 期：令和7年5月3日（土）～5月6日（火）

b. 会 場：市立大町山岳博物館 付属園

c. 参加者：延べ1,616人（子ども～大人）

（内訳）「クイズ&スタンプラリー」

344人 5月3日～6日

「動植物観察ツアー・おおまびょんと遊ぼう」 105人 5月3日～5日

「ライチョウガイド」

1,167人 5月3日～6日

d. 概 要：展示動植物を解説しながら園内を巡る「動植物観察ツアー」、小さい子供にもカモシカに親しんでもらう「おおまびょんと遊ぼう」、展示動物を題材とした「付属園クイズ&スタンプラリー」、ライチョウについてより詳しく知っていただくための「ライチョウガイド」の4つの催しを実施した。山岳博物館では、開館間もない昭和28年頃から動植物を飼育栽培する付属園（動植物園）を屋外に併設し、希少野生動植物の保護増殖や調査研究を行うとともに、北アルプスの山麓から高山に生息する生物を飼育栽培して、生体展示などの教育普及を行っている。また、平成9年度から大北地域周辺の野生傷病鳥獣を救護収容している。付属園にかかわる市民対象の各種催しを実施する期間を「付属園まつり」と称して各催しを実施することで、付属園と飼育動物を身近に感じ、親しみを持っていただくとともに、傷病鳥獣の救護などの活動についても広く周知し、付属園の役割について理解を深めていただいた。これにより、大町市周辺地域の野生動物や自然環境への関心を高めていただくことを目的とした。

e. 所 見：今年度は開催期間を1日短縮して行ったことから、昨年度よりも参加者が85人減少したが、大型連休の中日は比較的来館者が少なく、昨年度課題としていた友の会ボランティアの負担を減らすことができ、妥当な対応であったと考える。「クイズ&スタンプラリー」については、子どもから大人まで幅広く参加者が見られた。最終日は雨天のためクイズラリーのみを行い、スタンプは受付で押す形式に変更したが、一定数の参加者が見られた。多くの参加があった「ライチョウガイド」は、友の会ボランティアがじっくりとライチョウに関する解説を行うことで、ライチョウや域外保全への関心喚起を図るうえで有効であったと考える。「動植物観察ツアー」では、高山植物や飼育動物について学芸員が解説することで、付属園の役割にとどまらず、動植物を身近に感じてもらう機会となり、自然環境保全への入り口としての機能を果たした。今年度は受付での呼びかけや掲示を増やすなどの対応を行ったためか、昨年度と比較して参加者が多い結果となった。また、今年度は友の会のボランティアの数を増員し、博物館受付案内等も協力していただいた。昨年10月からキャッシュレス対応を開始したことにより、受付業務に時間がかかるようになったことから、大型連休に伴う来館者の増加に円滑に対応するためにも有効であったと考えられた。一方で、スタンプ制作等のため、職員の業務に負担がかかったことから、実施手法を一部見直す必要があると考えられる。

ア 「クイズ&スタンプラリー」

付属園の展示動物を題材にしたクイズやスタンプを探しながら付属園を回ってもらうことで、楽しみながら動物について学ぶ機会とするとともに、じっくり観察してもらうことで見学効果を高め、飼育動物や付属園に親しんでいただく。

・開催日 5月3日（土）～5月6日（火）

イ 「動植物観察ツアー」

来園者と一緒に付属園の飼育・栽培動植物を解説しながら園内を回することで、見学効果を高め、飼育動物や付属園の役割を理解していただく。

・開催日時 5月3日（土）～5月5日（月）

植物：5月4日（日） 10時30分～

動物：5月3日（土・祝）14時30分～

5月4日（日・祝） 14時30分～

5月5日（月・祝） 10時30分～

14時30分～

ウ 「おおまびょんと遊ぼう」

カモシカをモチーフとしたおおまびょんが動物観察ツアーの後に登場。小さい子供にも付属園やカモシカに親しんでもらう機会とする。

・開催日時 5月3日（土）～5月5日（月） 各日11時～、15時～

エ 「ライチョウガイド」

一般公開しているライチョウ舎において、展示されている生体のライチョウを見ながら生態や保全の取り組みについて解説を行うことで、ライチョウやその生息する高山生態系の保全に

ついて理解を深めていただく機会とする。

・開催日 5月3日（土）～5月6日（火）

③自然ふれあい講座 みんなで温暖化ウォッチ「セミのぬけがらを探せ！ in 大町」（担当：岡本真緒）
（「長野県環境保全研究所 令和7年度自然ふれあい講座」を兼ねて開催）

a. 開催日：令和7年8月1日（金）

b. 共 催：長野県環境保全研究所

協 力：自然観察指導員長野県連絡会

c. 場 所：大町公園周辺及び当館講堂

d. 参加者数：小・中学生 4人・大人 2人 合計6人

e. 概 要：セミの抜け殻を探したり、じっくり観察したりしながら種を同定することで、楽しみながら身近な自然を学ぶ機会を提供する。また、毎年繰り返し実施することで、地球温暖化がセミに与える影響を調査する。本年度も大町市以外に長野県下5ヶ所（長野市・上田市・松本市・伊那市・飯田市）にて同様の調査を継続している。

f. 所 見：20人の募集のところ、6人参加という結果となり、大町市民からの参加者はいなかった。小学校において小学生向けの広報誌やその他チラシがデータ配信となったことから、子どもや保護者の目に留まる機会が減った可能性が考えられる。広報については長野県環境保全研究所職員とともに課題であると認識していたものの、参加者6名という結果になってしまったことから、今後の市民への周知方法を再検討する必要がある。一方で、参加者1組に対して、常時スタッフが2名付き添うことができ、採集だけでなく、種の同定のサポートが十分できたことにより、参加者の満足度の向上に寄与したと考えられる。

④その他

・10月11日（土） 地学教室「河原の石ころをさがそう」（担当：竹村健一）

→雨天のため中止（参加申込は13名）

⑤研究報告

「山のサイエンスカフェ in さんぱく 2026」さんぱくゼミナール（担当：竹村健一）

a. 開催日：令和8年3月8日（日）

b. 時 間：午後1時30分～午後4時

c. 場 所：市立大町山岳博物館 講堂

d. 参加人数：大人25人（定員30人）

e. 研究報告：「大町の外来種と市民科学」（岡本）、「高山植物の鼻の工夫－自家受粉を避けるさまざまな戦略－」（千葉）、「大町テフラの噴出源を訪ねて－企画展番外編－」（竹村）、「大町市内に現存する立山信仰に関する史料」（関）

f. 概 要：当館の調査研究事業について、具体的な内容を市民や地域住民にわかりやすく伝えることにより、その学術的な価値を広く社会に認知してもらい、地域における山岳文化の醸成に結びつける目的で企画・開催。当館の職員が前年度の『研究紀要』誌上で発表したり、当年度の「さんぱく研究最前線」でパネル展示を行ったりした北アルプス周辺地域の自然科学と人文・社会科学の諸分野における調査研究あるいは収蔵資料に関する各種情報等について研究報告・話題提供を行う。

昨年度と同様学芸員の減員もあり、発表は4本であったため1日のみの開催とした。事業開始当初の計画では、「参加者向けに茶湯の提供を行い、後半の部分はワールド・カフェ形式により、前半の講演の内容等をふまえ、茶湯を飲みながら参加者全員で自由に意見交換を行う」ということであった。ここ数年は新型コロナウイルス等の影響により飲食を伴う形式は行えなかったが、令和7年度は、これらの影響が低減されていると判断し、当初の目的に沿ったカフェ形式で、茶湯等を提供して実施し、参加された多くの方から好評を得た。

(2) 学校との連携・融合（調整：千葉悟志）

期 日	内容（館外の実施場所）	対象校・学年など	人数（人）	指 導
6月12～13日	職業体験学習	八坂小中学校7年	2	千葉
6月27日	学校連携授業「人の体のつくりと運動」・「生き物のくらし」	白馬北小学校4年（2クラス）	48	岡本
7月2日	「総合的な学習の時間」	大町西小学校5年	26	竹村

		(1 クラス)		
期 日	内 容（館外の実施場所）	対象校・学年など	人数 (人)	指 導
7 月 3 日	青木湖キャンプ自然観察指導(大町市)	大町南小学校 5 年 (2 クラス)	46	関・岡本
7 月 4 日	青木湖キャンプ自然観察指導(大町市)	大町西小学校 5 年 (2 クラス)	44	千葉・関
7 月 8～9 日	職業体験学習	白馬中学校 2 年	2	千葉
7 月 9～10 日	職業体験学習	大町中学校 2 年	2	千葉
7 月 11 日	青木湖キャンプ自然観察指導(大町市)	大町東小学校 5 年 (2 クラス)	22	関・岡本
7 月 14 日	青木湖キャンプ自然観察指導(大町市)	八坂小中学校 5 年 (1 クラス)	8	関・岡本
7 月 16～17 日	職業体験学習	高瀬中学校 2 年	2	千葉
8 月 21～22 日	職場体験学習	美麻小中学校 8 年	1	千葉
9 月 4 日	青木湖キャンプ自然観察指導(大町市)	白馬南小学校 5 年 (2 クラス)	43	千葉・岡本
9 月 26 日	学校連携授業「大地のつくり」(大町市)	白馬北小学校 6 年 (2 クラス)	43	竹村
10 月 2 日	学校連携授業「大地のつくり」(大町市)	大町東小学校 6 年	20	竹村
10 月 3 日	総合的な学習の時間	大町中学校 3 年	6	岡本・竹村
2 月 17 日	社会科「わたしたちのまち・みんなのまち」	大町南小学校 3 年 (2 クラス)	29	関
実施回数：16 回（延べ 21 日）		学校数：10 校	人数合計：344 人 (延べ 355 人)	

【小学校】

①「学校との連携授業」（市内小学校の博物館活用事業）（調整：千葉悟志）

- a. 実施日：上記のとおり ※6～2 月の間に、市内 3 小学校：3 回実施。（市外 1 小学校：2 回実施）
- b. 場 所：理 科：2 階「山と生きもの」ほか
社会科：1 階「山と人」、3 階「展望ラウンジ」
- c. 参加者数：市内小学生：75 人（内訳：3 年生 29 人、5 年生 26 人、6 年生 20 人）
市外小学生：94 人（4 年生：48 人、6 年生：46 人）

※このほか各小学校教員先生方の引率あり

- d. 概 要：学校教育と社会教育との連携・融合（学社連携・融合）推進のひとつとして、博物館の展示を利用した学校との連携授業を実施。平成 22 年度から 2 ヶ年、大町南小学校をモデル校に 4 年生の理科授業（動物）を年 1 回実施し、授業プログラムやワークシートを作成して検証・改良を行った。それをふまえ、平成 24 年度から新たに実施希望校を募り、市内小学校の博物館活用事業を本格実施している。平成 29 年度からは、各教科の各学習プログラムを追加作成し、大幅に増加。これにより、さらに実施回数を増やし、博物館を利用した小学校での各教科授業の一層の定着をめざす。同時に、博物館の所蔵資料や専門員・学芸員といった職員を学校の授業で活用していただくことで、児童・生徒の学習理解度の向上が期待でき、市民により身近な博物館をめざす。

- ア 連携授業 プログラム 1 理科・4 学年「生き物のくらし」「人の体のつくりと運動」
(学習素材：ライチョウ、ニホンカモシカ、ツキノワグマ)
- イ 連携授業 プログラム 2 社会科・6 学年「土地（大地）のつくりと変化」
(学習素材：化石、北アルプスの地形・地質)
- ウ 連携授業 プログラム 3 社会科・3 学年「わたしたちのまち みんなのまち ―市の様子―」
(学習素材：床面地図（空からマップ）、3 階からの展望（市街地周辺）など)
- エ 連携授業 プログラム 4 社会科・3 学年「かわってきた人々のくらし ―古い道具と昔のくらし―」

- (学習素材：山や雪にかかわる古い道具（民具）の展示)
- オ 連携授業 プログラム5 社会科・4 学年「きょう土を開く（きょう土に伝わる願い）」
(学習素材：地域の発展に尽くした先人・百瀬慎太郎)
- カ 連携授業 プログラム6 社会科・4 学年「わたしたちの県 一県の広がり・特色のある地いきと人々のくらしー」
(学習素材：床面地図（空からマップ）、3 階からの展望（北アルプス後立山連峰周辺）など)
- e. 所 見：29 年度からは、各教科の各学習プログラムを追加作成し、大幅に増加。これにより実施回数を増やし、博物館を利用した小学校での各教科授業の一層の定着をめざしたが、コロナ禍以降希望校が減少傾向にあり、異動時の申し送りの欠如や学校を通した周知徹底がされていないことも原因の一つと考えられる。一方、近隣町村に転出した教諭から希望が寄せられ、市外でも可能な限り受け入れ、実施した。

②学校行事の自然観察指導（担当：千葉悟志）

- a. 実施日：上記のとおり ※7～9 月の間に、市内 4 小学校：4 回実施。（市外 1 小学校：1 回実施）
- b. 場 所：青木湖キャンプ場（大町市）
- c. 参加者数：市内小学生 延べ 163 人（市内：120 人、市外：43 人）※このほか各小学校教員先生方の引率あり
- d. 概 要：キャンプ場に 4 か所クイズを設置し、グループ毎に 1 枚の解答用紙を配布し、協力して解くクイズラリー。クイズは青木湖の成り立ち、湖周辺の遺構、縄文時代のくらし、青木湖周辺にすむ動物や環境問題を取りあげ、級友や先生といっしょに考える機会とすることを目的として実施。

【中学校】

①職業体験学習（調整：千葉悟志）

- a. 実施日：上記のとおり ※6～8 月の間に、市内 3 中学校、市外 2 中学校：5 回（延べ 10 日）実施
- c. 参加者数：9 人
- d. 所 見：これまで飼育員の指導の下、2 日間の飼育体験をしていただいたが、動物の好きな生徒が募れない場合は、中止となることが散見されたことから、令和 6 年度より、学芸員の日常の業務体験ができるプログラムに変更したところ、市外中学校からの体験希望が寄せられるようになり、中学生においても興味関心が高いことが伺えた。

②博物館活用事業（調整：千葉悟志）

- a. 実施日：上記のとおり ※10 月に、市内 1 中学校：2 回実施
- b. 単元名：研究グループ総合学習
- c. 参加者数：6 人（3 クラス）
- d. 所 見：令和 7 年度は、「人々と動物たちの暮らしをどのように見守っていくか」、「ライチョウに関する質問」、「大町市の自然が商業的、環境的にもたらす影響」の質問に学芸員が対応した。

【高校】

①長野県大町岳陽高等学校学究科 1 年 野外実習（担当：千葉悟志）

- a. 実施日：令和 7 年 8 月 26 日 実施
- c. 参加者数：53 人
- d. 所 見：親海湿原（白馬村）において、コオニユリやドクゼリ、サワギキョウなどの花にやってくる昆虫との関係について、実際に観察しながら、花粉を媒介させるための花のしくみなどの解説を行ったほか、匂いを嗅いでもらい、その匂いから想像される植物和名を当てるクイズなどを実施した。昨年度までは、2 クラスあり午前・午後に分けて実施したが、今年度は生徒の減少により 1 クラス、午前中だけの開催となった。

(3) 博物館実習の受入（調整：千葉悟志）

期 日	実 習 者	人 員	指 導
7 月 29 日（火） ～8 月 3 日（日） ※計 6 日間	信州大学 理学部・人文学部 4 年生 4 人 信州大学大学院 総合理工学研究科 岩手大学 農学部 4 年生	6 人	千葉・関・岡本・竹村・家城

博物館法施行規則第 2 条（博物館実習）第 1 項の規定にもとづき、学芸員の有資格者となるために大学で修得すべき博物館関係科目単位の一つである博物館実習を希望する大学生の受け入れ

を行った。当館での博物館実習は博物館における実践的な側面の学習を主眼におき、実習を実施した。教育普及を中心に資料整理や受付業務等の博物館業務全体について実習を行い、地方における地域博物館の役割を体験的に学習していただいた。

当館での実習志望の理由として、山岳や動植物などに興味関心を持っていたからであるという声が多かったことから、「山岳」をテーマにした博物館である当館が実習先として学生に選ばれたと考えられる。計画に基づき、一つの事業に限らず網羅的に博物館全体の業務を経験していただくことで、学芸員になるための単位取得のためだけではなく、博物館における多岐にわたる事業の理解と、地方における地域博物館の役割について深く理解していただけた。当館としては博物館実習を教育普及活動の一環として位置づけ、生涯学習支援・社会教育の推進につながるものとして実施している。また、学生へ指導することによって、自らが担当している業務について役割や意義をあらためて見直す機会にもなる。実施方法として、実習の実施に際して各担当者と調整し、実習期間中の1日ごとの詳細な学習計画を作成し、事前に実習生に送付した。今年度はコロナ禍で中断していた、実習生が行う、来館者に対するスポットガイドの実施を再開した。学芸員は多種多様なお客様に接する機会が多いため、学芸員の仕事の一環である幅広い層のお客様に適した柔軟な対応を意識していただくきっかけとなり、効果的だったと考えられた。

(4) 学習会等への協力（調整：千葉悟志）

期 日	内容（館外の実施場所）	主 催	人数 （人）	指 導
4月10日	冒頭説明	大町安曇野北アルプス展望ツアー	30	関
4月17日	冒頭説明	大町安曇野北アルプス展望ツアー	36	関
4月24日	冒頭説明	大町安曇野北アルプス展望ツアー	20	関
4月26日	出張講座（大町市）	一般財団法人地域づくり美麻	15	岡本
5月11日	出張講座（大町市）	大町山岳博物館友の会	21	岡本
5月13日	冒頭説明	武蔵学園小学校	19	関
5月25日	講演会（大町市）	大町市上下水道課企画係	70	岡本
5月27日	冒頭説明	白百合学園中学校	127	岡本
6月1日	講演会（大町市）	地域フロラ談話会	35	千葉
6月22日	講演会（大町市）	長野県山岳総合センター	12	関
7月5日	自然観察会（白馬村）	長野県山岳総合センター	20	千葉
8月2日	講演会（安曇野市）	安曇野市豊科図書館	30	関
8月3日	学習会（大町市）	長野県山岳総合センター	8	岡本
8月10日	講演会（長野市）	信濃毎日新聞社	120	岡本
8月12日	冒頭説明	ボーイスカウト高槻第7団	25	千葉
8月26日	館内説明	三越伊勢丹ニッコウトラベルの旅	22	千葉
8月31日	館内説明	北アルプス山麓リゾートと黒部ダム特別見学の旅	16	千葉
9月7日	学習会（大町市）	大町市スポーツ課	10	関
9月28日	館内説明	松本市中央公民館	20	千葉
10月15日	講演会（大町市）	大町市上下水道課	45	竹村
10月17日	館内説明	糸魚川地区公民館	25	関
10月29日	館内説明	三越伊勢丹ニッコウトラベルの旅	6	千葉
11月3日	館内説明	三越伊勢丹ニッコウトラベルの旅	6	岡本
11月9日	館内説明	登山系YouTuberやぎちゃんオフ会	30	岡本
11月12日	館内説明	自然保護レンジャー安曇連絡協議会	7	千葉
11月19日	館内説明	長野県シニア大学	9	関
11月26日	学習会（大町市）	シニア大学スマイル探見隊	8	竹村
11月27日	冒頭説明	ながの能喝クラブ	18	千葉
11月28日	冒頭説明	山旅人ツアー	8	関
12月6日	出張講座（松本市）	長野県山岳総合センター	17	関
12月13日	付属園解説	信州松本動物専門学校	22	岡本
2月15日	学習会（大町市）	大町山岳博物館友の会	17	岡本

実施回数：32回	件数：32団体	人数合計： 874人
----------	---------	---------------

前記以外に、下記の各種事業に協力した。

①第24回北アルプス雪形まつり（担当：関悟志）

- a. 主 催：第24回北アルプス雪形まつり実行委員会（事務局：生涯学習課生涯学習・青少年係内）
「雪形ウォッチング」担当：市立大町山岳博物館
- b. 協 力：あづみ野雪形研究会 大町市観光協会
- c. 開催日：令和7年6月14日（土） ※詩や絵画等の展示は6月1日（日）～13日（金）
- d. 場 所：サン・アルプス大町 大会議室
- e. 対 象：どなたでも
- f. 概 要：雪形をテーマに、春の喜びと郷土への愛情や誇りを共感する文化イベントとして第24回「北アルプス雪形まつり」（主催：雪形まつり実行委員会）が春に開催された。本年度は大町市文化会館が改修工事で使用できないため、例年開催の「雪形ステージ」は行わずに、詩や絵画等の展示および児童生徒作品の表彰式がサン・アルプス大町を会場にして行われた。当館では例年、雪形まつり実行委員として参画し、「雪形ウォッチング」を担当しているが、今年度は前述に理由から実施規模縮小ということで行わないこととなった。
- g. 所 見：来年度以降の課題として、雪形まつり全体がステージ発表部分を中心として実施されている現状においては、雪形ウォッチングが別の事業のような印象を受ける方もいるようであり、雪形まつり全体での一体感ある催しとして工夫しながら実施する必要があると考える。例年、県外からの参加者もいることから、雨天中止とはせずに雨天時にも予定コースを巡っているが、雪形を全く望むことができないため、通常実施と雨天時の2通りのプログラムを準備する必要がある。また、コスト面について、事業実施に要する実際の経費に対し、適切な参加費あるいは講師謝礼金額の設定を検討する必要がある。このほか、雪形まつりの趣旨を含め、全体の今後のあり方を再検討する必要がある。

（5）博物館資料の特別利用（調整：関悟志）

①館内利用 6件（このほか山岳図書資料の館内利用21件）

②館外利用 24件 ※内訳は下記のとおり（このほか山岳図書資料の館外利用0件（資料点数0点）、長期貸出による館外利用4件）

期 間	目 的	利用者	利用資料・点数
4月20日	ライチョウに関する講座	個人（山岳博物館顧問）	ライチョウの偽卵2点
4月25日	テレビ番組放送	テレビ信州	1～2階常設展示、ライチョウの映像データ1点
5月9日～8月末	映画制作の参考資料	ロボット	昭和20年代の山岳装備に関する資料写真データ一式
5月16日～	販売用Tシャツのデザイン	セイコウ社	山岳博物館のロゴデータ2点
6月3日～	書籍掲載	北日本新聞開発センター	針ノ木新道関係資料写真データ2点
6月5日	テレビ番組放送	テレビ信州	ライチョウに関する『山と博物館』誌面データ1点
6月20日～	ウェブサイト掲載	栃木リビング新聞社	切れたナイロンザイル、松濤明の手帳関係資料写真データ計4点
6月21日～	こども新聞掲載	ベネッセコーポレーション 家庭学習カンパニー	ライチョウの写真データ2点
7月25日～	新聞掲載	朝日新聞長野総局	ライチョウの雛の写真データ1点
7月29日～12月21日	企画展示、関係冊子掲載	東京慰霊協会	漆畑廣作の油彩画「焼岳」画像データ1点
8月1日～12月下旬	パネル展示	松本市危機管理課	手塚順一郎関係写真データ8点
8月5日～1月中旬	企画展示	松本市美術館	石井柏亭の油彩画「脇息に倚る女」1点

8月10日～	雑誌掲載	『フィッシングカフェ』編集部	遠山品右衛門関係資料、写真データ一式
期 間	目 的	利用者	利用資料・点数
8月26日～11月11日	企画展示	富山県[立山博物館]	針ノ木峠の関係写真・図データ4点
8月26日～11月11日	企画展示	富山県[立山博物館]	針ノ木新道関係資料、W・ウェストン関係資料 計6点
9月2日～24日	ウェブサイト掲載	大糸線ゆう浪漫委員会(大町市観光文化課)	ライチョウの写真データ1点
9月10日～	新聞掲載	朝日新聞長野総局	ライチョウの雛の写真データ3点
9月30日～	テレビ番組制作(NHK)	クリエイティブネクス	県営石室等の写真データ3点
10月11日～	テレビ番組放送	NHKコンテンツ制作局	W・ウェストン関係資料1点
10月12日	テレビ番組放送	長野朝日放送	2階常設展示、ライチョウ関係写真9点
3月3日	TickTok 撮影	長野県観光機構	常設展示、付属園
3月4日～7月	企画展示	松本市立博物館	W・ウェストン、上條嘉門次関係資料7点
3月4日～3月末	ガイドブック掲載	Waypoint to Northern Alps Japan	百瀬慎太郎関係写真データ1点
4月5日	新聞掲載	朝日新聞長野総局	ライチョウの写真データ4点

③長期貸出 4件

期 間	目 的	利用者	利用資料・点数
昭和55年7月21日～	常設展示	京都市動物園	カモシカ骨格標本2点
昭和56年7月1日～	教育普及	新潟県	ライチョウ剥製2点
平成18年11月15日～	常設展示	富山市科学博物館	ライチョウ剥製1点
平成28年4月28日～	常設展示	長谷川恒男記念庫	長谷川恒男使用登山靴1点

※これらのほか、報道機関・雑誌編集社などによる各種取材などがあり、随時これらに協力した。
 なお、社会教育施設・研究機関・個人などによる各種照会については別途記載のとおり。

(6) 山岳図書資料館の利用 (担当：関悟志)

開館日数	利用者数※			資料閲覧	資料貸出		利用時間
	市内	県内	県外	件数	件数	点数	
274 日	4 人	7 人	11 人	22 件	0 件	0 点	計 20 時間 45 分
	計 22 人			計 22 件			

※令和6年度利用者数の26人に対して、令和7度の利用者数は22人となり、対前年度比85%。

※資料閲覧と資料貸出との同時利用者を含む。

(7) 各種照会 (レファレンス) (調整：関悟志)

社会教育施設や研究機関、個人等からの学芸関係の各種照会 (レファレンス) に対する参考調査業務として、各分野の学芸員や専門員等が回答して情報提供を行った件数は次のとおり。なお、ここに集約した各種照会の件数は、軽微なものを除いた主な学芸関係のみの実績である。

合計 158 件 (自然科学系 50 件、人文科学系 106 件、その他 3 件) ※内訳の各分野の件数は重複の場合あり

※内訳は下記のとおり (上記内訳の各分野の件数は重複の場合あり)

受付日	照会者	方 法	目 的	分 野	照会事項 (概要)
4月2日	個人	電子メール	個人学習等	人文 (歴史)	アーネスト・サトウについて
4月2日	個人	電子メール	個人学習等	自然 (動物)	ライチョウのような鳥の目撃について
4月3日	個人	電子メール	個人学習等	人文 (歴史)	加藤文太郎について
4月3日	市八坂支所	電話	業務	人文 (美術)	山岳風景画について
4月8日	個人	電子メール	個人学習等	人文 (歴史)	白馬岳3号尾根積雪期初登攀について
4月9日	信濃毎日新聞社大町支局	来館	業務	人文 (民俗)	雪形について

4月9日	テレビ信州エンタープライズ	電子メール	業務	自然(動物)	ライチョウが日本で生息を始めた時期について
4月15日	個人	来館	その他	人文(歴史)	カモシカの毛皮について
受付日	照会者	方法	目的	分野	照会事項(概要)
4月18日	ベネッセコーポレーション	電子メール	業務	自然(動物)	ライチョウの換羽について
4月21日	個人	電話	その他	自然(動物)	ヒヨドリ保護について
4月22日	個人	来館	個人学習等	自然(植物)	植物図鑑について
4月23日	大町幼稚園	電話・電子メール	業務	自然(動物)	昆虫の同定について
4月24日	個人	来館	個人学習等	人文(歴史)	加藤文太郎について
4月24日	個人	電話	個人学習等	人文(民俗)	雪崩の方言(白馬・小谷地方)について
5月1日	大町市観光協会	電話	業務	人文(その他)	居谷里湿原西側の山道について
5月1日	個人	電話	個人学習等	人文(民俗)	雪形について
5月1日	ロボット	電話・電子メール	業務	人文(歴史)	昭和20年代の登山装備・服装について
5月2日	大町市有線放送	来館	業務	人文(歴史)	播隆の槍ヶ岳登山について
5月4日	個人	来館	個人学習等	人文(歴史)	歩荷について
5月8日	個人	電話	個人学習等	人文(美術)	山岳風景画の企画展について
5月9日	大町エネルギー博物館	電話	業務	人文(歴史)	仙沢隧道の名称について
5月9日	個人	来館	個人学習等	人文(歴史)	針ノ木小屋、大沢小屋について
5月9日	個人	来館	個人学習等	人文(歴史)	狩猟、針ノ木峠について
5月11日	個人	電話	個人学習等	人文(歴史)	明治期の日本山岳会会報の寄稿者について
5月14日	ロボット	電子メール・電話	業務	人文(歴史)	昭和20年代の登山装備・服装について
5月14日	個人	電子メール	個人学習等	人文(歴史・民俗)	カモシカ糞、イワナ漁、立山信仰、伐木・運材について
5月14日	市立大町図書館	電話・電子メール	業務	その他	蔵書照会について
5月15日	ハヶ岳総合博物館	電話	業務	自然(植物)	キバナオキナグサについて
5月16日	個人	来館	個人学習等	自然(植物)	植物図鑑について
5月17日	個人	電子メール	個人学習等	自然(植物)	山博友の会行事で見た植物について
5月20日	個人	来館	個人学習等	人文(その他)	山岳図書資料館について
5月21日	個人	来館	個人学習等	自然(植物)	居谷里湿原のミズバショウとザゼンソウについて
5月21日	個人	来館	個人学習等	自然(植物)	虫こぶについて
5月27日	てっぱん	電話・電子メール	業務	自然(動物)	カモシカについて
6月2日	個人	電子メール	業務	自然(植物)	北海道のコマクサについて
6月2日	個人	来館	個人学習等	自然(植物)	針ノ木雪溪のハイマツの枝について
6月4日	個人	来館	学術調査研究	人文(歴史)	収蔵する山岳関係の映像資料等について
6月5日	個人	電話	個人学習等	自然(植物)	鷹狩山のササユリについて
6月6日	個人	来館	個人学習等	自然(植物)	付属園の植物について
6月7日	個人	電子メール	個人学習等、学術調査研究	人文(歴史)	志村烏嶺の写真撮影に関して
6月7日	個人	電子メール	個人学習等	自然(動物)	ハクビシンについて
6月8日	個人	電子メール	個人学習等	自然(動物)	ライチョウのような鳥の目撃について
6月8日	個人	来館	個人学習等	自然(植物)	家の周りの植物について
6月8日	個人	来館	学業	人文(歴史)	中部山岳協会展示資料について
6月8日	個人	来館	学業	人文(歴史)	榎有恒の展示資料について
6月12日	個人	電子メール	個人学習等、学術調査研究	人文(歴史)	志村烏嶺の写真撮影に関して
6月14日	個人	来館	個人学習等	自然(植物)	付属園の植物について
6月17日	個人	手紙	個人学習等	人文(歴史)	測量登山などに関して
6月19日	個人	来館	個人学習等	自然(植物)	付属園の植物について
6月20日	個人	来館	個人学習等	人文(歴史)	山内製ビッケル、榎有恒のシェンク製ビッケル等について
6月22日	個人	来館	個人学習等	自然(植物)	シコタンハコベについて
6月24日	個人	電子メール	学業	自然(動物)	常設展示中のコムラサキについて
6月25日	大町市観光協会	電話	業務	人文(その他)	野口五郎岳の春と冬の写真画像について
6月25日	個人	電話	不明	自然(地理)	木崎湖の海拔について
6月27日	NHK BS「にっぽん百名山」制作会社	電話・電子メール	業務	人文(歴史)	大正登山ブームによる有明山登山の影響などについて
7月1日	個人	電子メール	学業	人文(歴史)	常設展示中のスノーシューについて

7月2日	NHK BS「にっぽん百名山」制作会社	電話	業務	人文(歴史)	大正登山ブームによる有明山登山の影響などについて
7月2日	個人	来館	その他	その他	白馬岳登山について
受付日	照会者	方法	目的	分野	照会事項(概要)
7月3日	松本市危機管理課	電話・電子メール	業務	人文(歴史)	手塚順一郎撮影による焼岳噴火の写真について
7月4日	個人	電子メール	学業	自然(動物)	常設展示中のカモシカの頭骨について
7月5日	個人	来館	その他	人文(歴史)	大黒鉱山について
7月6日	個人	電子メール	その他	人文(その他)	3階展示の日本地図について
7月9日	個人	来館	個人学習等	人文(美術)	中村清太郎の作品について
7月10日	カナダ・アルバータ大学博士課程学生	電子メール	学術調査研究	人文(歴史)	中国登山隊関係の文献資料について
7月11日	グリーンシグマ	web 会議	業務	自然(植物)	いもり湿原のミズバショウについて
7月11日	個人	電話	個人学習等	自然(動物)	田んぼの動物の足跡について
7月12日	スイス・フリブール大学教授	電子メール	学術調査研究	人文(歴史)	山岳関係ドキュメンタリー映画の巡回展について
7月13日	個人	来館	個人学習等	人文(民俗)	テンヅクについて
7月15日	個人	電話	個人学習等	自然(植物)	アオギリの開花について
7月16日	個人	電話	個人学習等	自然(植物)	ミズバショウが開花に至るまでの期間について
7月17日	個人	電話	個人学習等	人文(美術)	長谷川明夫制作のブロンズ像について
7月18日	個人	来館	個人学習等	人文(その他)	北・中央・南アルプスの各山脈範囲について
7月18日	個人	来館	個人学習等	人文(歴史)	槍ヶ岳など登山道上のハシゴやクサリを設置について
7月20日	個人	電子メール	個人学習等	人文(歴史)	松濤明の手帳について
7月23日	市観光文化課	電子メール・電話	業務	人文(歴史)	大正時代の写真について
7月26日	個人	電話	個人学習等	人文(その他)	信州側から望む剣・立山連峰について
7月29日	個人	来館	個人学習等	自然(地質)	岩石の鑑定
7月29日	個人	来館	その他	人文(歴史)	ワカンジキについて
7月30日	松本市立博物館	電話	業務	人文(歴史)	上高地のペナントについて
7月31日	農業・食品産業技術研究機構	電子メール	業務	自然(植物)	山博標本テンツキの生育場所について
8月3日	個人	電話	個人学習等	人文(歴史)	山岳の古写真について
8月5日	個人	来館	個人学習等	自然(地質)	岩石の鑑定
8月5日	個人	来館	その他	人文(歴史)	ピッケル等の登山用具について
8月8日	個人	電話	その他	人文(その他)	博物館から見える後立山連峰等について
8月10日	個人	電話	個人学習等	人文(歴史)	古代スキーの展示について
8月11日	個人	電話	個人学習等	人文(歴史)	遠山品右衛門について
8月15日	日本山岳会国際委員会	電子メール	業務	人文(歴史)	登山史上の人物の写真について
8月21日	NHK BS「にっぽん百名山」制作会社	電子メール	業務	人文(歴史)・自然(地質)	有明山に関して
8月21日	個人	電子メール	学術調査研究	その他	地域住民と歴史・文化に関して(アンケート)
8月28日	個人	電子メール	その他	人文(美術)	所蔵絵画の作者等について
8月28日	NHK BS「にっぽん百名山」制作会社	電子メール	業務	人文(歴史)・自然(地質)	有明山に関して
8月31日	個人	来館	業務	人文(民俗・歴史)	展示資料の民具等の素材に関して
9月2日	NHK BS「にっぽん百名山」制作会社	電子メール・電話	業務	人文(歴史)	二ノ俣山小屋に関して
9月2日	NHK 第3制作センター	電子メール・電話	業務	人文(歴史)	ウェストン著書の表記に関して
9月2日	個人	電話	その他	自然(動物)	放鳥したライチョウについて
9月2日	NHK「わさやか自然百景」	電話・電子メール	業務	自然(動物)	サンショウウオについて
9月12日	個人	電話	個人学習等	自然(動物)	自宅付近で確認した野鳥について
9月13日	個人	電話	個人学習等	自然(動物)	ライチョウ・野鳥などについて
9月13日	個人	電話	個人学習等	自然(植物)	ミズバショウが開花に至るまでの期間について
9月15日	個人	来館	個人学習等	人文(歴史)	大沢小屋の実物大再現模型に関して
9月15日	個人	来館	個人学習等	人文(歴史)	針ノ木新道に関して
9月18日	個人	電子メール	学術調査研究	人文(歴史)	カネジョウ飯嶋家文書(針ノ木新道関係)に関して
9月18日	個人	電話	個人学習等	自然(動物)	野鳥観察に関する相談窓口について
9月22日	個人	来館	個人学習等	人文(歴史)	針ノ木岳や裏銀座縦走路などの文献に関して
9月22日	山岳雑誌『山と溪谷』ライター	電話・電子メール	業務	人文(歴史)	最近の寄贈資料に関して
9月28日	個人	来館	個人学習等	人文(歴史)	ナイロンザイル事件の展示に関して
10月3日	個人	来館	個人学習等	人文(歴史)	エベレスト登頂者の平林克敏氏に関して

10月3日	大町中学校3年生(3名)	来館	学業	自然(動物)	生き物の暮らしと保護について
10月3日	大町中学校3年生(2名)	来館	学業	人文(歴史・民俗・その他)	自然と人のかかわりについて
受付日	照会者	方法	目的	分野	照会事項(概要)
10月7日	個人	当館専門員を通じて	学術調査研究	人文(歴史)	古地名が記載された地形図について
10月10日	個人	来館	その他	人文(歴史)	山内ピッケル等寄贈打診について
10月11日	育てる会指導員	電話	個人学習等	人文(民俗)	医王谷飯縄神社筒粥占い神事について
10月12日	個人	来館	個人学習等	自然(地質)	岩石の鑑定
10月12日	NHK番組「にっぽん百名山」制作会社	電話	業務	人文(民俗)	志村烏嶺の著作権継承者について
10月17日	個人	電話	その他	人文(歴史)	山岳図書の寄贈打診について
10月17日	大町中3年生(6名)	来館	学業	自然(地質・動物・植物)・人文(歴史)	仁科三湖の自然・歴史などについて
10月21日	個人	来館	その他	人文(歴史)	山内ピッケルについて
10月22日	九州大学人文科学研究院 准教授	メール・来館	学術調査研究	人文(歴史・民俗)	金剛杖・蓑・荷杖・私製ピッケルについて
10月28日	九州大学人文科学研究院 准教授	メール	学術調査研究	人文(歴史・民俗)	私製ピッケルの資料情報について
10月31日	日本山岳・スポーツライティング協会 専門理事	電話	その他	人文(その他)	山岳関係博物館の団体等について
11月5日	個人	来館	個人学習等	人文(美術)	洋画家・中川力の収蔵作品及び画集について
11月6日	糸魚川市教育委員会 学芸員	電話	業務	人文(美術)	日本画家・尾竹正躬の作品について
11月11日	大糸タイムス社	電話	業務	人文(美術)	大町の画家・柏原鼎湖について
11月11日	個人	電子メール	学術調査研究、その他	人文(歴史・美術)	二村ピッケル製造の鍛冶道具について
11月12日	自然保護レジャー安曇連絡協議会	来館	研修	自然(植物)	高山植物について
11月13日	個人	電話	その他	自然(動物)	危険な野生動物の駆除・防護について
11月16日	個人	電話	個人学習等	自然(植物)	ミョウガについて
11月30日	個人	来館	個人学習等	人文(考古・民俗)	丑館遺跡の出土遺物、農具(刈敷用大鎌)について
12月1日	北海道大学	メール	業務	自然(植物)	ノルゲスグ・トマリスグについて
12月17日	個人	来館	個人学習等	人文(歴史)	對山館と百瀬慎太郎等について
12月26日	個人	メール	個人学習等	人文(美術)	画家・竹井政宏について
1月5日	個人	メール	個人学習等	人文(歴史)	Bush 山の会会報について
1月5日	個人	電話	その他	人文(美術)	焼岳を描いた油彩作品の作者・河野敏幸について
1月8日	NHK BS「にっぽん百名山」制作会社	電子メール・電話	業務	人文(その他)	北燕岳の標高について
1月14日	日本山岳会資料映像委員会	メール	業務	人文(美術)	絵画作品の鑑定先について
1月19日	個人	メール	その他	人文(歴史)	写真アルバムについて
1月20日	個人	メール	その他	人文(歴史)	ピッケルについて
1月23日	企画財政課	電話	業務	自然(地質)	青木湖湖底の地形図について
2月3日	個人	電話	その他	人文(美術)	大下大五郎及び足立源一郎の作品貸与の提案について
2月4日	個人	電話	個人学習等	人文(歴史)	山岳図書資料について
2月10日	個人	電話	その他	自然(地質)	白馬岳が冬季以外でも白いのはなぜか
2月13日	WAYPOINT to NORTHERN ALPS of JAPAN	来館	その他	人文(歴史)	中華圏向け大町登山ガイドブックについて
2月17日	個人	ハガキ	個人学習等	人文(歴史)	企画展「對山館と百瀬慎太郎」解説書について
2月17日	槍ヶ岳観光	電子メール・電話	業務	人文(歴史)	殺生小屋の写真について
2月17日	個人	電話	個人学習等	人文(歴史)	山岳図書資料について
2月19日	個人	来館	その他	人文(歴史)	信濃鉄道関係書籍等について
2月27日	個人	電子メール	個人学習等	人文(歴史)	切れたナイロンザイルについて
3月4日	個人	電話	個人学習等	人文(歴史)	針ノ木新道について
3月6日	市観光文化課	電話	業務	自然(植物)	市内カタクリ及びワスレナグサ群生地の有無について
3月8日	個人	来館	個人学習等	人文(歴史)	市内の寺院について
3月12日	個人	電話	その他	人文(歴史)	登高記念帳について
3月17日	筑北村役場	電話	業務	自然(動物)	カモシカの保護について
3月17日	市建設課	来館	業務	自然(地質)	高瀬川の不法投棄と思われる物質の特定について
3月17日	個人	電子メール	学術調査研究、個人学習等	人文(歴史)	ナウマン博士の大町来訪について
3月19日	個人	電話	学術調査研究	人文(歴史)	山名由来について
3月21日	個人	来館	その他	人文(歴史)	山岳図書について
3月27日	個人	来館	個人学習等	人文(美術)	山岳風景画の作画場所について
3月31日	個人	電話	その他	人文(歴史)	山岳図書(ビデオテープ)について

3 執筆・出版

(1) 出版

①出版物

a. 広報誌『山と博物館』(担当：保科和弘)

本誌は、当館創立5年後の昭和31年2月20日「やまと博物館」として第1号を創刊。当初は当館後援会発行による有料による月刊の発行物として、旬の話題や保護動物の紹介、博物館の出来事などの記事を掲載していた。その後、「山と博物館」に改称。当館発行の月刊機関誌として位置付けられるようになり、各分野の専門家や職員等による学術色の濃い読み物的な内容の文章を掲載するようになる。時代を経るにつれ、前述のような内容の紹介に誌面を多く割くようになったが、平成26年3月の展示改修によるリニューアルオープンを機に、創刊当初に立ち返り、博物館の動きや北アルプスの話題などをより分かりやすく、より広くお伝えしようと考え、本誌の編集方針を大幅に見直して誌面を刷新。第59巻第3号(2014年4月号)から、無料の広報誌として位置付けて発行することとした。これは平成27年度の『研究紀要』創刊を見越して学術的な文書の掲載はそちらに譲り、速報的なお知らせ等は平成26年3月の展示改修を機にサイトをリニューアルした公式ホームページを最大限に活用するといった広報・宣伝を含め、館全体の情報発信体制を見直す中でのことであった。平成30年度からは、これまでの月刊から夏・秋・冬・春の年4回発行の季刊に変更し、同年度は第63巻第4号(2018夏号)から第64巻第1号(2019春号)を発行。これは、大町市が山岳文化都市宣言のまちであることから、市民の皆様当館をより身近に感じていただけるように、毎号の誌面を増やして今まで以上に内容を充実し、市内全戸の皆様方に配布することとしたことによる。

本年度は、第70巻第2号(2025夏号)[発行日：令和7年6月25日]、第70巻第3号(2025秋号)[発行日：令和7年9月25日]、第70巻第4号(2025冬号)[発行日：令和7年12月25日]、第71巻第1号(2026春)[発行日：令和8年3月25日]を編集・発行した。

各号の発行部数：9,000部、体裁：A4判、8頁、カラー刷り。毎号、『広報おおまち』とともに組み込み文書として市内全戸へ配布し、市内の小中学校や社会教育施設・文化施設等へ配布・設置したほか、県内外の関係者や関係機関等への配布を行った。なお、本誌バックナンバーについては当館公式ウェブサイト上にてオンライン版(PDF)として公開中。

b. 『年報』(担当：藤澤浩紀・保科和弘)

『市立大町山岳博物館 令和7年度 年報』(発行日：令和8年7月25日、体裁：A4判、50頁、単色刷り、PDF)を編集・発行を行い、当館公式ウェブサイト上にてオンライン版(PDF)として公開中。

c. 『研究紀要』(担当：岡本真緒)

当館では、調査研究事業の一層の充実を図ることで、学術的な成果情報を資料収集保管事業や教育普及事業へ展開するという博物館活動の良好な循環体制の構築を進めるため、北アルプスと周辺地域の自然科学、人文・社会科学諸分野の調査研究に関する学術的な成果情報を収録する『研究紀要』を平成27年度に創刊した。

本年度、『市立大町山岳博物館研究紀要 第11号』(発行日：令和8年3月31日、発行部数：本誌400部、本誌体裁：A4判・カラー、44頁)を編集・発行し、関係者や関係機関等へ配布した。なお、本誌バックナンバーについては当館公式ウェブサイトおよび科学技術情報基盤「J-STAGE」(科学技術情報発信・流通総合システム)にてオンライン版の電子ジャーナル(PDF)として公開中。

②販売中の出版物(調整：千葉悟志)

現在販売中の当館編集による出版物は以下の通り。 ※完売のもの除く(令和8年3月31日現在)

書 名	発 行 先	発行年	備 考
北アルプス登山史資料2 一白馬岳周辺登山史一	市立大町山岳博物館	平成24年	館内にて販売中
常設展示案内書	〃	平成28年	〃
研究紀要 第4号	〃	令和元年	〃
研究紀要 第6号	〃	令和3年	〃

研究紀要 第7号	〃	令和4年	〃
研究紀要 第9号	〃	令和6年	〃
書 名	発 行 先	発行年	備 考
研究紀要 第10号	〃	令和7年	〃
企画展「大地はなぞだらけ」解説書		平成24年	〃
企画展「北アルプス山麓の自然に蝶が舞う」解説書	〃	平成28年	〃
R5年度 企画展 ホネ展	〃	令和5年	〃
R5年度 企画展 大町と絶滅動物	〃	令和5年	〃
R6年度 企画展 小学校の生きもの探索記	〃	令和6年	〃
R7年度 企画展大町にも火山灰が降った!?	〃	令和7年	〃

4 広報・宣伝（調整：保科和弘）

博物館の施設利用案内や各種催し案内、博物館の活動紹介や魅力紹介を広く周知することで、より多くの方々に博物館を知っていただき、興味・関心を持っていただいて博物館を利用していただくため、公式ウェブサイトや公式 SNS の管理（更新・充実）を行うとともに、各種メディア等による取材・雑誌掲載等を含め、観光施設としての各種照会の対応を行った。

こうした広報・宣伝を行うことで、博物館の認知度・関心度を高め、利用者増を図りたい。これにより、市民や地域住民、登山者や観光旅行者等のだれもが、いつでも、どこでも気軽に利用していただける場所として広く親しまれる博物館づくりにつなげ、地域における博物館の存在価値を一層高めていきたい。

ただし、広報・宣伝における効果的な情報発信の内容や手法等については今後検討し、常時見直していく必要がある。博物館全体の広報・宣伝（情報提供）体制を再確認し、市観光協会や市観光文化課等との連携を強化し、効果的な体制を構築することが急務である。そのためにも将来を見据えた博物館マネジメントを戦略的に進めることが重要である。まずは現状を把握するため、観光施設としての面に重点を置いた市場調査の実施を検討することも一案と考える。

なお、平成30年度以降、印刷・配布を行ってきた年間行事チラシについては、例年、前年度末に翌年度の年間行事予定のチラシを印刷し、当該年度初めに配布していたが、本年度は印刷費の予算が確保できなかったため、広報誌『山と博物館』2025春号の誌上にて、従来の年間行事予定チラシと同様の体裁によって令和7年度年間催し予定を1ページ全面に掲載して対応した。今後もこのような対応で次年度の年間催し予定を広報する予定。

(1) 公式ウェブサイト管理（担当：保科和弘）

インターネット媒体として、公式ウェブサイト上の掲載情報について企画展等の開催等にあわせて随時更新を行った。 URL：<https://www.omachi-sanpaku.com>

なお、公式ウェブサイト以外にも、大町市や安曇野アトラインの公式ウェブサイトにおいて、各担当が必要に応じて情報発信を随時行った。

年 度	ページビュー数（回） （昨年度比）	ユーザー数 （人）	備 考
平成26(2014)年度	157,667	22,454	運用開始
平成27(2015)年度	179,795 (114%)	28,503	
平成28(2016)年度	191,864 (107%)	30,550	
平成29(2017)年度	166,611 (87%)	31,090	
平成30(2018)年度	177,668 (107%)		
令和元(2019)年度	199,295 (112%)		
令和2(2020)年度	165,434 (83%)		
令和3(2021)年度	192,329 (116%)	44,695	
令和4(2022)年度	203,970 (106%)	50,476	
令和5(2023)年度	65,020 (32%)	51,007	
令和6(2024)年度	— (—%)	—	アクセス解析サービスの都合で未測定
令和7(2025)年度	188,858 (290%)	53,375	令和5(2023)年度比

(2) SNS を用いた情報発信（担当：保科和弘）

近年までに SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を用いた情報発信が企業・行政等で積極的に行われており、当市役所内でも文化会館や市民活動サポートセンター等で先行して運用が開始されてきている。当館では令和元年 5 月から始めている Facebook の運用に加え、令和 2 年 5 月からは X、Instagram の運用を開始している。

現在、主にイベント情報の告知、飼育動物に関する紹介等について情報発信を随時行っている。より効果的な内容や発信体制・頻度などについて検討を続け、随時改善を図っていききたい。

SNS の種別	運用開始年月	フォロワー数※ (前年度比)	年間更新回数 (前年度比)
Facebook〈博物館用〉	令和元(2019)年 5 月	285 人 (106%)	0 回 (0%)
X〈博物館用〉	令和 2(2020)年 5 月	1,515 人 (102%)	1 回 (20%)
X〈付属園用〉	〃	10,744 人 (117%)	392 回 (97%)
Instagram〈付属園用〉	〃	7,881 人 (114%)	152 回 (66%)

※令和 7(2025)年 3 月末時点の累計

(3) 年間行事チラシ配布（担当：保科和弘）

各催しの個別情報については、各担当から大町市の広報誌「広報おおまち」や子ども・親子向け情報誌「がったつうしん」（大町市子どもセンター編集・発行）によって市民や近隣地域住民向け、「情報提供書」によって市内・県内の各報道機関向けに情報発信を行ったほか、県内や全国の博物館関係誌や山岳関係誌等への情報発信を行うなどした。

(4) 観光施設としての各種照会等の対応（担当：保科和弘）

旅行案内雑誌等の観光施設を主とした記事掲載に関わる照会等について、情報提供や記事校正等の対応を随時行った。

5 大町博物館連絡会（担当：千葉悟志）

大町博物館連絡会は加盟館 11 館で構成。うち、令和 7 年度は 1 館が休館。例年、会長は大町エネルギー博物館長、事務局（事務局）は当館が担っている。

当館では同連絡会加盟館（理事：館長、幹事〈事務局員〉：職員）として理事会及び総会を準備・運営するとともに出席し、各種事業の企画立案・準備・実施に携わった。主な事業として、加盟館 11 館から会費、日帰り温泉施設 9 施設から掲載協力金、大町市観光協会から印刷負担金を収納して「おおまち博物館めぐり案内図（2025 年版）」4 万 2500 部を印刷作成。近隣のホテル・旅館・観光案内所等に配布したほか、大町市観光課・観光協会を通じて県外での観光 PR イベントや旅行者・旅行業代理店業者向けの商談会などに提供し、誘客を図った。

なお、本年度の連絡会総会及び理事会は、令和 7 年 6 月 24 日に山岳博物館講堂で開催、事業報告、会計監査報告、来年度事業計画及び予算などが開催された。

本総会において、会計を塩の道ちょうじや、大町博物館めぐり案内図印刷担当をラ・カスタ ナチュラルヒーリングが担当することとした。また、配布設置についても担当箇所を決め、各館が配布・依頼することとした。

6 安曇野アートライン推進協議会 美術館・博物館部会（担当：関悟志）

安曇野アートライン推進協議会は、当市を含む安曇野周辺の 5 市町村、当館を含む美術館・博物館 16 館で構成。本年度、本会の役員について、会長は安曇野市長、事務局は安曇野市（主管：商工観光スポーツ部観光課）、事務局長は北アルプス展望美術館の倉科智幸氏が担い、当市関係としては市長が副会長、生涯学習課長と当館名誉館長が幹事を務める（任期 2 年の 1 年目）。美術館・博物館部会の役員について、代表館は安曇野市豊科近代美術館が担い、当館が役員館を務め、安曇野高橋節郎記念美術館が役員館を務める。

本年度、当館では部会の役員会や会議（年間 6 回）に参加し、「安曇野アートラインサマースクール」や「安曇野アートライン」、「安曇野アートラインから AR（拡張現実）アートを発信します!!」に参画した。このほか、アートラインマップやサマースクールチラシの編集発行・配布にかかわる事務作業への協力、同部会の職員研修等への参加等を行った。

7 大町山岳博物館友の会（担当：関悟志）

大町山岳博物館友の会は、会員の知識の向上をはかるとともに、山岳博物館の種々の事業に協力することを目的とし、自然観察会、例会・講演会、会報の発行、博物館の事業に参加協力する団体である。

(1) 組織

①役員※・顧問 ※任期：令和7・8年度

- a. 正副会長 会長：宮澤洋介 副会長：丸山優子
- b. 運営部 部長：川崎 晃 部員：川崎祐子（会計担当）、丸山卓哉（編集担当）、有川美保子、若林みどり、西田 均、早川伸一、綿内教子、仁科眞清
- c. 監 査 園田弘美、宮田京子
- d. 事務局 主務：関 悟志（博物館）
- e. 顧 問 長沢正彦

②会員（令和8年3月31日現在）

会員種別	令和7年度 会員数	備 考
正会員・個人会員	66 人	
正会員・ファミリー会員	41 家族（146 人）	
賛助会員	1 団体	
名誉会員	1 人	
終身会員	2 人	
合 計	1 団体・215 人	前年度比 18 人減

(2) 運営部

①運営部会 全12回開催（会場：山岳博物館 講堂または宿直室）

②主催事業

実施日	行事名・実施場所など	参加者
令和7年4月13日（日）	総会記念講演会「見たことのないハナバチの世界 ―安曇平のハナバチ調査―」 場所：博物館 講堂 講師：腰原正己さん（友の会会員、元小学校理科教諭） 令和6年度 大町山岳博物館友の会総会 場所：博物館 講堂	参加者数 記念講演会 42 人（会員以外含む） 総会 28 人（会員）
令和7年5月11日（日）	博物ハイキング ―大峰山西麓編― 場所：仁科神明宮～大峰中腹 講師：友の会会員	募集人員 15 人 参加者数 19 人（参加率 127%）
令和7年7月20・21日（日・月祝）	山の子村の一夜 場所：山の子村 講師：友の会会員	募集人員 15 人 参加者数 11 人（参加率 73%）
令和7年9月20日（土）	善光寺街道を歩いてみようⅤ ―北国西街道編（第3回）― 場所：桑原宿～稲荷山宿～篠ノ井宿～丹波島宿 講師：元大町市文化財センター学芸員 清水隆寿氏	募集人員 20 人 参加者数 13 人（参加率 65%）
令和8年2月15日（日）	スノーシューで行く冬の居谷里 場所：居谷里湿原周辺 講師：博物館 岡本学芸員 友の会 長沢顧問	募集人員 15 人 参加者数 9 人（参加率 60%）

※参加者数は講師・事務局を除く友の会会員の人数

③共催・協力事業

実施日	行事名・実施場所など	参加者
令和7年10月11日（土）	地学教室「河原の石ころをさがそう」 主催：博物館／協力：友の会ほか 場所：竈川の河原	募集人員 20 人 雨天中止

	講師：博物館 竹村専門員、友の会 宮澤洋介・丸山卓哉・丸山優子	
実施日	行事名・実施場所など	参加者
令和8年3月8日（日）	研究報告&座談会「山のサイエンスカフェ in さんぱく 2026」 主催：博物館／協力：友の会 場所：博物館 講堂	募集人員 30 人 参加者数 25 人 （参加率 85%） ※友の会会員の参加者 15 人

※このほか、サークル「ボランティアの会」による各種博物事業への協力あり

(3) 広報・宣伝

- ①会報「ゆきつばき通信」による広報・宣伝活動
- ②山岳博物館が作成する「年間催しのご案内」リーフレットや広報誌『山と博物館』、博物館の公式ウェブサイトを通じた広報・宣伝活動

(4) 出版

会報「ゆきつばき通信」

号数	発行日	主な掲載内容
202 号	令和7年4月20日	(行事案内) 博物ハイキングー大峰山西麓編、博物館よりお知らせ (報告) 大町の火山灰を見る、友の会総会記念講演会、友の会総会、 県環境保全研究所 信州自然講座「北アルプスのライチョウをとりまく “今”を知る」、山のサイエンスカフェ in さんぱく 2025、山博スタッフ の紹介、ボランティアの会、サークル近況、博物館訪問記
203 号	令和7年8月24日	(行事案内) 善光寺街道を歩いてみようⅤ、博物館よりお知らせ (報告) 博物ハイキングー大峰山西麓編、山の子村の一夜、トーク ショー「神田めぐみ・シェルパ齊藤 山小屋を語る」、山博スタッフの 紹介、烏帽子の会、ボランティアの会
204 号	令和7年12月20日	(行事案内) 冬の自然観察会 スノーシューで行く冬の居谷里、総会・ 講演会のお知らせ、博物館からのお知らせ (報告) 善光寺街道を歩いてみようⅤ、山の子村の一夜 その2、企画 展「大町にも火山灰が降った?!」、寄稿 初めての白山、高知県立牧野 植物園との交換標本、烏帽子の会、ボランティアの会

※その他、「お知らせ版」を臨時発行

(5) サークル活動

①烏帽子の会 サークル会員 27 人（令和8年3月31日 現在）

活 動 日	内 容	参加者
令和7年 6月14日(土)	花岡城址・総会（池田町）	19 名 + 5 名
令和7年 7月26日(土)	茅ヶ岳（韮崎市・北杜市）	9 名
令和7年 9月28日(日)	金戸山（生坂村）	13 名
令和7年 10月31日(金)	戸倉山（糸魚川市）	15 名
令和8年 1月24日(土)	大峰高原スノーシュー（池田町）	9 名
令和8年 2月28日(土)	岩岳山 ねずこの森（白馬町）	12 名

②ボランティアの会 サークル会員 27 人（令和8年3月31日 現在）

項 目	活 動 日	内 容	参加者
環境整備	4月～10月 延べ8回	博物館周辺の環境整備	延べ88人
図書整理	11月～2月 延べ4回	山岳図書資料館蔵書整理	延べ32人
封入	6月・8月・9月・12月・3月 延べ5回（3月以外は環境整備・図書整理にあわせて実施）	『山と博物館』『ゆきつばき通信』 その他博物館印刷のチラシ等の封入	12人
野外整備	4月11日	居谷湿原遊歩道整備	11人

項 目	活 動 日	内 容	参加者
博物事業協力	5月3日～6日	「付属園まつり」受付・ライチョウガイド等	延べ42人
	8月16日	館内ガイド	2人
	3月8日	「山のサイエンスカフェ」受付・喫茶準備	4人
研修	11月8日	群馬県立自然史博物館	20人

③花めぐり紀行 サークル会員7人（令和8年3月31日 現在）

活 動 日	内 容	参加者
令和7年4月～令和8年3月	植物さく葉標本づくり	延べ22人
令和7年5月～6月	高山植物の植え替え	延べ9人
令和7年7月～9月	植物園除草作業	延べ25人

④山岳文化研究会 サークル会員9人（令和8年3月31日 現在）

令和7年度は個人での山岳文化の調査・収集を行い、会としての活動は行っていない。

8 ライチョウ会議（担当：岡本真緒）

(1) ライチョウ会議

ライチョウ会議（議長：信州大学 中村浩志特任教授）は、日本アルプスとその周辺に生息するライチョウに関する情報交換と、調査及び研究の連携を図ること、ライチョウに関する知識の普及と啓発を行うことを目的として設置された組織である。当館はその事務局を議長より委嘱されており、会議の運営にあたる事務連絡、諸経費の管理を行っている。本年度は開催されなかった。

9 長野県山岳総合センターとの連携事業（調整：関悟志）

長野県山岳総合センターとの連携事業として、以下のとおり同センターが主催する催しに当館学芸員が講師として協力した。長野県の教育機関として安全登山の普及・啓発に関する各種事業を行う同センターは、その施設が当館と隣接する。当館は山岳をテーマとした博物館という社会教育施設であることから、同じく山にかかわる機関・施設同士、今後も連携を深めて相互の機能向上につなげたい。

(1) 野外活動講座「大町の山岳文化史跡を訪ねよう！」（担当：関悟志）

- a. 主 催：長野県山岳総合センター
- b. 協 力：市立大町山岳博物館
- c. 開催日：令和7年6月22日（日）9：00～12：30
- d. 場 所：大町市の市街地周辺
- e. 参加者：12人（大人）
- f. 概 要：信濃大町駅前から若一王子神社までの往復約5kmを歩きながら、百瀬慎太郎の歌碑や中部山岳鳩協会の跡地などの市街地周辺にある登山史ゆかりの場所などを巡った。まちなかにもにも残る山の歴史・民俗。山岳文化都市「大町市」の魅力を再発見していただけたものと考えらる。

(2) 野外活動講座「八方尾根の高山植物」（担当：千葉悟志）

- a. 主 催：長野県山岳総合センター
- b. 協 力：市立大町山岳博物館
- c. 開催日：令和7年7月5日（土）8：00～15：00
- d. 場 所：八方尾根
- e. 参加者：14人（大人）
- f. 概 要：令和7年7月発売の「生物の科学 遺伝」特集 高山植物学の最前線に執筆した博物館の研究内容を中心に、高山植物の花と昆虫との関係について解説を行った。

(3) わくわく自然講座「夏休み！たかがり kids キャンプ 水辺の生きもののさがし」

（担当：岡本真緒）

- a. 主 催：長野県山岳総合センター
- b. 協 力：市立大町山岳博物館
- c. 開催日：令和7年8月3日（日）8：30～11：30
- d. 場 所：農具川
- e. 参加者：15人（小学生）
- f. 概 要：県山岳総合センターで農具川に生息する魚類、その捕獲方法について学んだ後、農具川が流れ込む水路において、たも網を使った採集を行い、身近な河川である農具川に生息する生き物の観察を行った。

(4) 野外活動講座「大町の火山噴出物」（担当：竹村健一）

- a. 主 催：長野県山岳総合センター
- b. 協 力：市立大町山岳博物館
- c. 開催日：令和7年9月23日（火・祝）9：00～12：00
- d. 場 所：樋沢（博物館北側の沢沿い）、市立大町山岳博物館（講堂・特別展示室）
- e. 参加者：13人（大人）
- f. 概 要：初めに博物館北側の林道沿いから樋沢において、百万年以上前に北アルプスからもたらされた軽石を含む火山灰の露頭や水中に堆積した地層（砂岩・泥岩）を観察した。その後、博物館講堂にて採取した火山灰をテレビ顕微鏡を使いながら担当者が解説。希望者には解散後に企画展「大町にも火山灰が降った?!」の展示を見学していただいた。

IV 動植物飼育栽培繁殖事業

1 動物飼育繁殖（担当：岡本真緒・唐澤紗波・渡邊咲晴・瀧沢有純・伊澤美琴・宮代大輝）

付属園（動植物園）では貴重な野生動植物を守り、増やし、研究をしながら、北アルプスの山麓から高山までの生物を栽培・飼育し、生きている姿を見ていただくという考え方を大切に、以下の基本方針を定めている（平成24年度策定）。

- 生体展示・・・生きている姿と命の大切さがわかる展示をめざす。
- 教育普及への活用・・・飼育栽培している動植物を活用した教育普及活動をする。
- 傷病鳥獣の救護・・・傷ついたり病気になったりした野生動物を救護し、野生に戻す努力をするともに、野生に戻せない野生動物の長期飼育をする。
- 希少種の保護・・・希少野生動植物の飼育・栽培、繁殖・増殖と調査研究に努める。
- 施設整備の充実・・・付属園の目的を達成させるため、施設の整備を順次進める。

当館の基本理念と上記の基本方針に基づき、付属園（動植物園）では、希少野生動物繁殖事業、アルプス動物園友好提携事業（交換動物）、野生傷病鳥獣救護事業（受託事業）を実施し、それら事業に関わり動物飼育繁殖事業を含む博物館事業（資料収集保管事業、調査研究事業、教育普及事業）を行っている。

現在、希少野生動物繁殖事業ではニホンカモシカとライチョウを飼育し、野生傷病鳥獣救護事業では大町市周辺で救護された野生動物を飼育している。なお、野生傷病鳥獣救護事業の新規受け入れおよびアルプス動物園友好提携事業での交換動物の飼育は現在行っていない。

飼育動物（令和8年3月31日現在）

（単位：個体）

種 名(哺乳類)	雄	雌	不明	計	種 名(鳥類)	雄	雌	不明	計
ニホンカモシカ	2(1)			2(1)	トビ			8(8)	8(8)
ハクビシン		1(1)		1(1)	フクロウ		1(1)		1(1)
タヌキ	1			1	スバルバルライチョウ	1			1
					ライチョウ	2	3		5
計	3(1)	1(1)		4(2)	計	3	4(1)	8(8)	15(9)

・哺乳類 3(2)種・4(2)個体

・鳥類 4(2)種・15(9)個体

合計 7(4)種・19(11)個体

※括弧内の数は救護動物の種数・個体数

※他園にブリーディングローンで貸し出し中の個体は含まれない

(1) 希少野生動物繁殖

当館ではニホンカモシカ、ライチョウ、イヌワシなどの希少野生動物の繁殖に取り組んできた経緯がある。平成 28 年度よりライチョウの飼育を再開し、同年に乗鞍岳で採卵した卵の孵化と育雛に取り組んだ。以後、毎年繁殖の取り組みを行い、前年度に引き続き、令和 7 年度はライチョウの中央アルプスへの野生復帰に取り組んだ。ニホンカモシカについては、当館で飼育中の個体の繁殖は行っていないが、将来的に繁殖を行うことを検討している。ブリーディングローンで貸し出し中の長野市茶臼山動物園の雌および横浜市金沢動物園の雄については、現在繁殖の取り組みが行われており、長野市茶臼山動物園の雌は第 2 子を出産したことが報告された。

①ニホンカモシカ

a. 出生・導入個体

なし。

b. 死亡個体

雌 1 頭 2025 年 1 月 27 日死亡（れんげ 15 才）

c. 転出個体

なし。

d. 今後の計画

飼育個体が老齢となり、本年度は飼育していた 3 頭のうち、1 頭は死亡、1 頭は傾斜が大きい放飼場から移動して展示中止とした。今年度は展示個体の維持を視野にいれ、新規個体の導入を検討している。

②ライチョウ

a. 概要

環境省主導の中央アルプス野生復帰事業への協力として、ニホンライチョウ（以下、ライチョウ）の人工繁殖と、孵化した個体への野生型腸内細菌叢の構築およびアイメリア原虫への軽度感染等を行うことで、野生復帰可能な個体の創出に取り組み、令和 7 年 9 月に中央アルプスへの野生復帰を実施した。本年度野生復帰は、当館からは 3 羽放鳥という結果となった。また全体では、当館に加え、那須どうぶつ王国、いしかわ動物園および長野市茶臼山動物園から成鳥 8 羽、雛 11 羽の計 19 羽を放鳥した。

b. 繁殖

令和 6 年度に引き続き、環境省主導の中央アルプスにおけるライチョウの野生復帰事業に参画し、その事業の一環として人工繁殖した雛に対して以下の取り組みを行った。野生ライチョウの糞便からつくられた野生型腸内細菌が含まれる菌末を給餌することで、繁殖させた雛に対して野生型腸内細菌叢の定着を試みた。併せて、腸内細菌の定着を促すため、高山植物を給餌した。他にも、野生下のライチョウが高率で感染しているアイメリア原虫に軽度に感染させ、免疫を獲得させた。

上記の取り組みにより、野生復帰可能な個体を創出するため、2 つがいについて繁殖に取り組み、12 卵を人工孵卵した。その後、5 羽の雛が孵化し、野生復帰当日までに雄 3 羽の雛が成長した。成長した雛については全羽が野生復帰可能な個体として認められ、中央アルプスへの野生復帰に供した。

c. 野生復帰

野生復帰させた当館の個体について、信州大学名誉教授の中村浩志氏が行った調査によると、令和 6 年度に放鳥した 5 羽は翌年以降発見されていない。本年度放鳥した 3 羽の雛は、放鳥後から 1 羽が発見されておらず、10 月末までの調査では 2 羽が確認されたとの報告があった。

d. 死亡個体

・本年度は繁殖した雛 2 羽と成鳥雄 3 羽が死亡した。死因に関しては、日本獣医生命科学大学に依頼して病理解剖及び病理検査を行った。

死亡日	血統登録番号 (Local ID)	性別	年 齢	死 因
令和 7 年 6 月 17 日	N102 (T-2008)	雄	4 才	腎不全
令和 7 年 7 月 10 日	N225 (N119-2506)	雄	6 日齢	不明
令和 7 年 7 月 11 日	N224 (N119-2503)	雄	7 日齢	不明
令和 7 年 7 月 13 日	N44	雄	7 才	肝細胞がん
令和 7 年 11 月 17 日	N18 (16-011)	雄	9 才	不明

e. 転入個体

・次年度当館での展示に供するため、計画管理者の策定した移動計画に基づいて移動を行った。

転入日	血統登録番号 (LocalID)	性別	年齢	移動元
令和 8 年 3 月 31 日	N101 (T-2007)	雄	5 才	富山市ファミリーパーク

f. 中央アルプスへの野生復帰個体

- ・環境省主導の中央アルプスにおけるライチョウの野生復帰事業に基づいて 3 羽の雛を中央アルプスへ放鳥した。

放鳥日	血統登録番号 (LocalID)	性別
令和 7 年 9 月 19 日	N223 (N118-2503)	雄
令和 7 年 9 月 19 日	N221 (N118-2505)	雄
令和 7 年 9 月 19 日	N222 (N119-2507)	雄

(2) 希少野生動物繁殖以外の飼育動物の増減

譲渡や受け入れ、死亡等により下記の動物の増減があった。

月・日	種 名	性別	記号・愛称	事由 (移動先もしくは移動元)
令和 8 年 1 月 9 日	キジバト	雌	うずら	死亡

キジバトの死因は外傷によるものと考えられたが、周辺に野生動物等の痕跡や飼育室内の突起物などは認められなかった。

(3) 傷病鳥獣救護

傷病鳥獣救護については、昭和 28 年頃の付属園併設以降、野生動物の保護や近隣住民への教育的配慮の観点から独自に行ってきたが、平成 9 年度からは長野県の指導を受けて行うようになり、平成 17 年度からは長野県の野生傷病鳥獣救護事業委託の受託によって行っており、現在、大北地域における野生傷病鳥獣救護施設としてケガや病気の野生動物を収容している。

しかし、近年のライチョウの飼育再開に伴い、防疫上の観点や関係法令等に基づいた適切な対応を考慮し、平成 27 年度以降、傷病鳥獣の新規受け入れを行っていない。また、令和 5 年度に長野県の野生傷病鳥獣救護の委託業務は終了した。なお、平成 26 年度までに収容された傷病鳥獣については引き続き保護・飼養を行い、救護事業への寄与を継続して行っている。

2 植物栽培繁殖 (担当：千葉悟志)

(1) 栽培植物

①栽培植物の増減

増：なし

減：オヤマリンドウ、ハクサンフウロ、トウキ、ハクサンボウフウ、ベニバナイチゴ、ハクサンシャクナゲ、アラシグサ、イワベンケイ、ユキワリソウ、ヒメクワガタ、コウリンカ、シラタマノキ

② 栽培植物 (57 種)

アズミノヘラオモダカ (長野県絶滅危惧ⅠA類)、トガクシソウ (長野県絶滅危惧ⅠA類)、ビッチュウフウロ (長野県絶滅危惧ⅠB類)、サクラソウ (長野県絶滅危惧Ⅱ類、長野県希少野生植物指定種)、トキソウ (絶滅危惧Ⅱ類)、ササユリ (長野県準絶滅危惧・長野県指定希少野生植物指定種)、カキツバタ (長野県準絶滅危惧)、フクジュソウ (長野県準絶滅危惧)、コオニユリ、クサレダマ、ミズオトギリ、エゾミソハギ、ミズバショウ、リュウキンカ、サワギキョウ、モウセンゴケ、コマクサ、ミヤマセンキュウ、クロトウヒレン、ヤマガラシ、ウスユキソウ、ミヤマオトコヨモギ、ミヤマダイコンソウ、ヤマブキショウマ、コケモモ、クロユリ、ガンコウラン、クロマメノキ、チングルマ、タカネナナカマド、クロウスゴ、ミツバオウレン、ホンドミヤマネズ、オンタデ、ズダヤクシュ、イブキトラノオ、タカネマツムシソウ、ハクサントイゲキ、カライトソウ、イワオウギ、ミヤマクワガタ、ミソガワソウ、ゼンテイカ、タテヤマウツボグサ、ゴゼンタチバナ、エゾスグリ、コメススキ、ハイマツ、シナノオトギリ、アキギリ、クロクモソウ、チョウジギク、ハクサンオミナエシ、カニコウモリ、ノコンギク、ノハナショウブ、シコタンハコベ、

a. 栽培の状況

昨年、付属園においてキジバト舎付近に高山植物エリア (約 12 m²) を新たに設けた。減となった植物種は、移植後に枯死し、環境の変化が原因と考えられる。

3 付属園整備 (担当：千葉悟志・岡本真緒)

(1) 付属園整備構想の計画見直しについて

①経過と方針

博物館付属園整備構想及び計画については、平成 25 年度に一度作成しているところであるが、その後に行われたライチョウ舎の増設工事との整合性を図るため、ライチョウ舎以外の整備計画作成に着手すべく、平成 30 年度において大町市教育委員会、大町市社会教育委員会、市立大町山岳博物館協議会、大町山岳博物館友の会（役員対象）に意見聴取をさせていただき、この結果を踏まえて館内において協議を重ねてきた。

現行構想においては「市民に愛される付属園」とされ、付属園が今日まで市民や観光客に親しまれてきた経過を考慮すると、整備構想の見直しに際し、ライチョウとカモシカ以外の動物の飼育も視野に調整が図られてきた。

一方、大町市の財政事情を鑑み、展示を含めた教育普及、調査研究、また観光資源として、近隣動物園及び植物園等と如何に差別化を図るかが重要になる。また近年は高山植物等の栽培展示も始めており、国の特別天然記念物 2 種に高山植物を加えた展示に優位性を見出せるかを検討中である。

4 公益社団法人日本動物園水族館協会（担当：岡本真緒）

公益社団法人日本動物園水族館協会（略称：日動水、JAZA）は、国際的な視野に立って、自然や貴重な動物を保護するためにできた国内の動物園や水族館の組織。日本全体の視野に立って、「種の保存」「教育・環境教育」「調査・研究」「レクリエーション」という 4 つの目的を中心に、単独の園館ではできないことを協力して行っており、当館では付属園で動物を飼育していることから、同協会へ加盟している。

本年度は随時、各種調査への報告等を行ったほか、各種会議・研修への出席参加なども行った。

V その他

1 各種委員等の委嘱他

ライチョウ会議 事務局（岡本真緒）

日本動物園水族館協会生物多様性委員会 ライチョウ専門技術員（岡本真緒）

全国山岳博物館等連絡会議（関悟志）

長野県博物館協議会 監事（鈴木啓助）

高山植物等保護対策協議会 中信地区会員（代理：千葉悟志）

安曇野アートライン推進協議会 幹事（太田三博） 美術館・博物館部会（関悟志）

大北地区野生鳥獣保護管理対策協議会 委員（太田三博）

北アルプス北部地区山岳遭難防止対策協会 参与（太田三博）

長野県科学振興会大町支部 理事（岡本真緒）

大町桜まつり実行委員会 委員（太田三博）

大町博物館連絡会 幹事（千葉悟志）

大町博物館連絡会 代表 大町市青少年育成協議会 理事（関悟志）

北アルプス雪形まつり実行委員会 実行委員（関悟志）

2 アルプス動物園との友好提携協定の締結

昭和 60 年 2 月 18 日、オーストリア・インスブルック市のアルプス動物園と当館は、次のような目的による友好提携協定について締結をした。

「同じような自然環境に囲まれたインスブルックと大町両市の市長は、その締結を大いに歓迎し、また、両市民は文化をはじめさまざまな分野において、緊密な交流をはかり、それを通じて相互信頼と友好を深め、将来にわたって、インスブルック市と大町市の繁栄と幸福のために貢献する。」（同協定書より抜粋）平成 27 年 4 月 8 日、友好提携 30 周年を記念し、友好提携再締結をした。

3 信州大学山岳科学研究所との研究協力協定の締結

平成 17 年 7 月 5 日、信州大学山岳科学総合研究所と当館は、次のような目的による研究協力協定について締結をした。

「山岳および大町市とその周辺地方の民俗、歴史などの資料を収集、保管、展示し一般の観覧に供し、本邦における山岳文化などの普及並びに調査研究を行う市立大町山岳博物館と、信州の自然と社会をフィールドとして、山岳及びそれに連なる里山における自然と人間の相互関係にかかわる諸

問題の解決を目指した研究を行い、新しい学問領域「山岳科学」を創造しようとする信州大学山岳科学研究所は、相互の連携の意義を深く認識し、自然と人間の共生の諸課題探求に力をあわせて貢献するため、ここに研究協力協定を締結する。」（同協定書より抜粋）

4 長野県環境保全研究所との連携・協力に関する協定の締結

平成 26 年 3 月 25 日、長野県環境保全研究所と当館は、次のような目的による連携・協力に関する協定について締結をした。

「長野県を特徴づける山岳域の自然とその環境保全にかかわる諸課題の解明や解決に力をあわせて取り組むことが、学術振興や自然環境保全、そして地域の発展に重要な役割を果たすことを深く認識し、両機関が、調査研究・教育普及・人材育成等、相互協力が可能な事項について、互恵の精神に基づき具体的な連携・協力を効果的に実施することにより、学術の振興及び自然環境保全に寄与するとともに、地域の発展に貢献することを目的として連携・協力に関する協定を締結する。」（同協定書より抜粋）

なお連携協定の有効期間は、締結日から 5 年間と定められていることから、あらためて相互に協定書を交わし令和 6 年 4 月 1 日に再締結を行った。有効期間は令和 11 年 3 月 31 日までの 5 年間とした。

5 ライチョウ類の飼育技術の提携に関する協定の締結

平成 27 年 6 月 18 日、公益財団法人富山市ファミリーパーク公社と当館は、次のような目的による連携に関する協定について締結をした。

「ニホンライチョウは国の特別天然記念物にも指定されている日本を代表する鳥類であるが、近年は絶滅が危惧され、国の保護増殖事業計画種にも指定されている。両園館は互いに隣接する、ニホンライチョウの生息地に所在する園館として、ニホンライチョウの保護増殖を目的に、ライチョウ類の飼育繁殖技術の提携に関する協定を締結する。」（同協定書より抜粋）

6 「梅棹忠夫・山と探検文学賞」授賞式への出席

この賞は、平成 22 年 5 月に「梅棹忠夫・山と探検文学賞」委員会によって創設されたもので、大町市へ贈呈された毎回の授賞作品を当館で山岳図書資料として収蔵している。毎年度、同委員会主催によって、6 月頃に同賞授賞式が信濃毎日新聞社長野本社講堂で開催されており、来賓として大町市長が招待を受け、市長の出席がかなわない場合には当館館長が代理出席して市長メッセージ（祝辞）を代読している。今年度については、受賞該当作品なしという結果となったため、授賞式及び記念講演会は開催されなかった。

これまでの「梅棹忠夫・山と探検文学賞」受賞作品は以下の通り。

- 第 1 回（平成 24 年度） 角幡唯介『空白の五マイル』（集英社）
- 第 2 回（平成 25 年度） 中村 保『最後の辺境 チベットのアルプス』（山と溪谷社）
- 第 3 回（平成 26 年度） 高野秀行『謎の独立国家 ソマリランド』（本の雑誌社）
- 第 4 回（平成 27 年度） 中村 哲『天、共に在り アフガニスタン三十年の闘い』（NHK 出版）
- 第 5 回（平成 28 年度） 服部文祥『ツンドラ・サバイバル』（みすず書房）
- 第 6 回（平成 29 年度） 中村逸郎『シベリア最深紀行 知られざる大地への七つの旅』（岩波書店）
- 第 7 回（平成 30 年度） 大竹英洋『そして、ぼくは旅に出た。はじまりの森ノースウッズ』（あすなろ書房）
- 第 8 回（令和元年度） 佐藤 優『十五の夏（上・下）』（幻冬舎）
- 第 9 回（令和 2 年度） 萩田泰永『考える脚』（KADOKAWA）
- 第 10 回（令和 3 年度） 小野和子『あいたくて ききたくて 旅にでる』（PUMPQUAKES）
- 第 11 回（令和 4 年度） 川瀬 慈『エチオピア高原の吟遊詩人 ―うたに生きる者たち―』（音楽之友社）
- 第 12 回（令和 5 年度） 神長幹雄ほか『日本人とエベレスト ―植村直己から栗城史多まで―』（山と溪谷社）
- 第 13 回（令和 6 年度） 船尾 修『大インドス世界への旅
―チベット、インド、パキスタン、アフガニスタンを貫く大河流域を歩く―』（彩流社）
- 第 14 回（令和 7 年度） 該当作品なし

VI 運営

1 組織および職員構成

(1) 組織



(2) 顧問

小坂共栄（平成28年3月1日～）、宮野典夫（令和2年4月1日～）

(3) 職員

①配置

館長 牛越秀仁（～6月12日）、太田三博（教育次長兼務、6月12日～）
副館長 千葉悟志（館長補佐・自然科学系植物担当）
事務員 保科和弘（主査）
学芸員 関 悟志（主査・人文科学系担当）
学芸員 岡本真緒（主事・自然科学系動物担当）
専門員※ 竹村健一（自然科学系地質担当）
事務補助員※ 家城良好・降旗孝浩（兼資料整理員）
動物飼育員※ 唐澤沙波（～令和7年11月31日）・渡邊咲晴・瀧沢有純・伊澤琴美・
宮代大輝（令和7年12月1日～）
獣医師 横沢 豊（令和2年3月1日～ 非常勤） ※会計年度任用職員

②人事異動

転入館長 牛越秀仁（令和7年4月1日～、6月12日～庶務課付）
太田三博（令和7年6月12日 教育委員会教育次長との兼務）
転出館長 藤巻孝之（令和7年3月31日 役職定年により八坂支所へ）
退職副館長 清水博文
主幹 降旗隆浩

2 市立大町山岳博物館協議会

協議委員任期：令和6年8月22日～令和8年3月31日〔任期：2年間〕

協議委員名簿：高山俊彦（学校教育関係者）

宮澤洋介（社会教育関係者） ※協議会会長

平出誠二（家庭教育活動者）

赤坂隆宏（家庭教育活動者）

岡田忠興（学識経験者） ※協議会副会長

村越直美（学識経験者）

小林芽里（学識経験者）

須賀 丈（学識経験者）

青島貴哉（学識経験者） ※令和7年4月1日～（人事異動による）

須田 哲（学識経験者）

丸山祥子（学識経験者）

永澄 祭（公募による市民）

(1) 第1回協議会

①日 時：令和7年9月12日（金） 午前10時～正午

②場 所：山岳博物館 講堂

③出席者：宮澤洋介、高山俊彦、赤坂隆宏、青島貴哉、村越直美、浜田 崇、須田 哲、丸山祥子
太田三博、千葉悟志、保科和弘、関 悟志、岡本真緒、竹村健一

④内 容：・報告

- (1) 前館長逮捕のお詫びおよび経緯について
- (2) 令和6年度事業について
- (3) 令和7年度事業計画および進捗状況について
 - ① 職員職務分担、計画、予算、各種事業について
 - ② 空調設備工事業務について
 - ③ ライチョウ保護事業について
- ・協議
- (1) 山岳博物館の社会教育施設・調査研究施設・観光施設としての評価について

(2) 第2回協議会

①日 時：令和8年2月19日（木） 午前10時00分～午前11時30分

②場 所：山岳博物館 講堂

③出席者：宮澤洋介、岡田忠興、高山俊彦、赤坂隆宏、村越直美、青島貴哉、須田 哲、丸山祥子、永澄 祭

中村一郎、千葉悟志、保科和弘、関 悟志、岡本真緒、竹村健一

④内 容：・報告

- (1) 第一回協議会での委員からの提案についての検討について
 - ① インバウンドの対象スポットに向けたアンケート調査について
 - ② バックヤード見学会について
 - ③ 高校生との連携について
- (2) 令和7年度事業報告について
- ・協議
- (1) 令和8年度事業概要について
- (2) 令和8年度事業予算について

※令和元年度以前等の『年報』では「入館者状況」としていたが、当館条例の表記に則して「入館者」を「観覧者」（博物館を観覧しようとする者）に改めるとともに、「観覧以外の利用者」の項目を新たに加え、両者の総計をもって「利用者状況」とした。なお、令和2年度以前等の「観覧以外の利用者」の数値については、過去の実績を遡って集計した人数を記載した。

3 利用者状況

(1) 年度別の利用者状況

(単位：人)

年 度	利 用 者																			
	観 覧 者（常設展ならび企画展・特別展の観覧）												観覧以外の利用者※ （催し参加・学習協力・資料特別利用・各種照会）						総計	
	有料観覧者						無料観覧者				小計	合計	催し 参加者 （主催 事業）	学習協力先の 参加者		資料特別 利用者 （山岳図書 資料館利 用者含む）	各種 照会者 （レファ レンス）	合計		
	個人			団体			小計	一般 減免	市内					小計						
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生			65 歳 以上	高校生					小中生					
S26	291	—	100	21	—	77	489	—	—	—	—	—	489	—	—	—	—	—	—	489
27	2,425	—	1,022	186	—	1,514	5,147	—	—	—	—	—	5,147	—	—	—	—	—	—	5,147
28	8,922	—	2,229	725	—	1,216	13,092	—	—	—	—	—	13,092	—	—	—	—	—	—	13,092
29	7,779	—	1,831	625	—	1,189	11,424	—	—	—	—	—	11,424	—	—	—	—	—	—	11,424
30	6,831	—	1,664	1,445	—	945	10,885	—	—	—	—	—	10,885	—	—	—	—	—	—	10,885
31	2,148	—	888	1,036	—	858	4,930	—	—	—	—	—	4,930	—	—	—	—	—	—	4,930
32	1,934	—	658	826	—	1,880	5,298	—	—	—	—	—	5,298	—	—	—	—	—	—	5,298
33	2,979	—	1,032	1,469	—	2,417	7,897	—	—	—	—	—	7,897	—	—	—	—	—	—	7,897
34	2,972	—	626	1,727	—	1,788	7,113	—	—	—	—	—	7,113	—	—	—	—	—	—	7,113
35	3,635	—	878	1,943	—	2,143	8,599	—	—	—	—	—	8,599	—	—	—	—	—	—	8,599
36	4,181	—	1,329	2,132	—	2,521	10,163	—	—	—	—	—	10,163	—	—	—	—	—	—	10,163
37	5,313	—	1,633	4,549	—	2,748	14,243	—	—	—	—	—	14,243	—	—	—	—	—	—	14,243
38	6,394	—	1,854	4,727	—	2,918	15,893	—	—	—	—	—	15,893	—	—	—	—	—	—	15,893
39	10,464	—	1,658	12,600	—	1,520	26,242	—	—	—	—	—	26,242	—	—	—	—	—	—	26,242
40	14,214	—	1,696	8,050	—	1,600	25,560	—	—	—	—	—	25,560	—	—	—	—	—	—	25,560
41	10,399	—	1,711	13,070	—	1,500	26,680	—	—	—	—	—	26,680	—	—	—	—	—	—	26,680
42	12,891	—	1,649	8,301	—	3,059	25,900	—	—	—	—	—	25,900	—	—	—	—	—	—	25,900
43	18,458	—	2,071	17,769	—	3,240	41,538	—	—	—	—	—	41,538	—	—	—	—	—	—	41,538
44	16,273	—	2,100	10,845	—	3,749	32,967	—	—	—	—	—	32,967	—	—	—	—	—	—	32,967
45	13,405	—	1,941	11,623	—	3,960	30,929	—	—	—	—	—	30,929	—	—	—	—	—	—	30,929
46	18,414	—	3,001	14,718	—	3,193	39,326	—	—	—	—	—	39,326	—	—	—	—	—	—	39,326
47	17,500	—	3,025	13,268	—	6,877	40,670	—	—	—	—	—	40,670	—	—	—	—	—	—	40,670
48	25,809	—	4,178	22,612	—	5,774	58,373	—	—	—	—	—	58,373	—	—	—	—	—	—	58,373
49	28,702	—	4,277	23,432	—	5,843	62,254	—	—	—	—	—	62,254	—	—	—	—	—	—	62,254
50	32,345	—	4,896	23,616	—	6,835	67,692	—	—	—	—	—	67,692	—	—	—	—	—	—	67,692
51	32,111	—	5,142	25,150	—	8,200	70,603	—	—	—	—	—	70,603	—	—	—	—	—	—	70,603

(単位：人)

年 度	利 用 者																			総計
	観 覧 者（常設展ならび企画展・特別展の観覧）												観覧以外の利用者※ （催し参加・学習協力・資料特別利用・各種照会）							
	有料観覧者						無料観覧者				小計	合計	催し参加者 （主催事業）	学習協力先の参加者		資料特別利用者 （山岳図書資料館利用者含む）	各種照会者 （レファレンス）	合計		
	個人			団体			一般減免	市内						小計						
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生		65歳以上	高校生	小中生										
S52	26,155	—	4,311	18,907	—	5,327	54,700	—	—	—	—	—	54,700	—	—	—	—	—	—	54,700
53	26,346	—	4,158	24,903	—	8,722	64,129	—	—	—	—	—	64,129	—	—	—	—	—	—	64,129
54	27,769	—	4,485	25,089	—	6,600	63,943	—	—	—	—	—	63,943	—	—	—	—	—	—	63,943
55	25,743	—	4,414	19,909	—	6,972	57,038	—	—	—	—	—	57,038	—	—	—	—	—	—	57,038
56	31,697	—	7,558	16,182	—	9,695	65,132	—	—	—	—	—	65,132	—	—	—	—	—	—	65,132
57	31,894	809	6,400	10,391	5,827	6,929	62,250	7,965	—	—	—	7,965	70,215	—	—	—	—	—	—	70,215
58	33,590	988	6,632	15,885	7,992	12,303	77,390	9,026	—	—	—	9,026	86,416	—	—	—	—	—	—	86,416
59	30,335	816	5,905	12,969	9,172	15,070	74,267	8,117	—	—	—	8,117	82,384	—	—	—	—	—	—	82,384
60	36,686	1,142	8,025	22,782	8,559	15,902	93,096	6,770	—	—	—	6,770	99,866	—	—	—	—	—	—	99,866
61	34,797	1,086	6,109	16,001	8,107	16,069	82,169	4,509	—	—	—	4,509	86,678	—	—	—	—	—	—	86,678
62	33,132	918	5,581	18,751	7,065	17,186	82,633	3,605	—	—	—	3,605	86,238	—	—	—	—	—	—	86,238
63	36,116	841	5,932	14,947	6,085	14,735	78,656	6,269	—	—	—	6,269	84,925	—	—	—	—	—	—	84,925
H1	41,018	1,199	6,450	13,191	4,650	10,527	77,035	3,709	—	—	—	3,709	80,744	—	—	—	—	—	—	80,744
2	43,444	1,108	6,752	16,486	3,045	7,119	77,954	4,844	—	—	—	4,844	82,798	—	—	—	—	—	—	82,798
3	47,004	1,276	7,313	13,817	4,212	8,278	81,900	4,577	—	—	—	4,577	86,477	—	—	—	—	—	—	86,477
4	42,197	725	5,719	13,068	1,687	7,015	70,411	3,413	—	—	—	3,413	73,824	—	—	—	—	—	—	73,824
5	45,182	809	5,807	12,249	2,807	5,325	72,179	3,587	—	—	—	3,587	75,766	—	—	—	—	—	—	75,766
6	38,354	933	4,809	10,561	1,932	4,974	61,563	3,376	—	—	—	3,376	64,939	—	—	—	—	—	—	64,939
7	37,356	981	4,650	9,493	1,840	4,164	58,484	5,376	—	—	—	5,376	63,860	—	—	—	—	—	—	63,860
8	36,002	869	4,189	6,601	1,905	2,244	51,810	2,174	—	—	—	2,174	53,984	—	—	—	—	—	—	53,984
9	31,119	626	3,417	7,626	1,245	2,100	46,133	1,429	—	—	—	1,429	47,562	—	—	—	—	—	—	47,562
10	28,219	637	3,105	6,023	764	2,006	40,754	1,686	—	—	—	1,686	42,440	—	—	—	—	—	—	42,440
11	24,220	482	2,200	4,766	561	1,183	33,412	1,206	—	—	—	1,206	34,618	—	—	—	—	—	—	34,618
12	23,082	501	2,273	5,344	648	1,024	32,872	1,187	—	—		1,187	34,059	—	—	—	—	—	—	34,059
13	24,064	439	2,163	3,389	671	1,577	32,303	1,497	387	—	826	2,710	35,013	—	—	—	—	—	—	35,013
14	20,527	472	1,744	2,518	675	808	26,744	1,013	191	—	451	1,655	28,399	3,332	27	33	—	—	3,392	31,791
15	19,693	535	2,152	2,184	785	1,082	26,431	990	285	—	616	1,891	28,322	2,873	70	21	6	—	2,970	31,292
16	14,664	376	1,073	2,875	602	644	20,234	604	51	—	662	1,317	21,551	1,690	25	31	19	—	1,765	23,316
17	12,065	213	630	3,138	692	928	17,666	1011	97	—	491	1,599	19,265	1,351	957	780	21	—	3,109	22,374

(単位：人)

年 度	利 用 者																			総計
	観 覧 者（常設展ならび企画展・特別展の観覧）												観覧以外の利用者※ （催し参加・学習協力・資料特別利用・各種照会）							
	有料観覧者						無料観覧者						催し 参加者 (主催 事業)	学習協力先の 参加者		資料特別 利用者 (山岳図書 資料館利 用者含む)	各種 照会者 (レファ レンス)	合計		
	個人			団体			一般 減免	市内			小計									
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生		小計	65 歳 以上	高校生		小中生								
H18	14,056	135	996	3,120	545	1,836	20,688	1,825	162	—	688	2,675	23,363	1,639	1,345	913	11	—	3,908	27,271
19	10,991	120	742	2,401	407	1,037	15,698	1,087	94	—	693	1,874	17,572	2,212	1,022	575	5	—	3,814	21,386
20	11,532	130	803	2,766	381	578	16,190	1,518	188	—	619	2,325	18,515	2,220	842	496	4	—	3,562	22,077
21	11,269	100	704	3,055	61	1,098	16,287	1,164	143	—	348	1,655	17,942	2,416	540	417	6	—	3,379	21,321
22	9,578	103	594	2,665	466	467	13,873	955	116	—	203	1,274	15,147	1,500	932	699	8	—	3,139	18,286
23	12,376	127	855	2,963	328	1,396	18,045	2023	146	—	819	2988	21,033	1,857	1,019	1,609	20	—	4,505	25,538
24	9,827	114	640	2,335	498	587	14,001	1,294	94	—	783	2,171	16,172	1,579	1,002	1,516	193	—	4,290	20,462
25	7,550	97	522	2,008	142	353	10,672	919	162	—	409	1,490	12,162	693	920	243	86	—	1,942	14,104
26	12,249	120	892	3,146	655	370	17,432	2,450	422	—	615	3,487	20,919	1,435	1,162	720	144	—	3,461	24,380
27	10,427	101	795	2,729	444	610	15,106	2,350	214	—	572	3,136	18,242	1,511	725	380	140	—	2,756	20,998
28	9,774	98	709	2,442	433	540	13,996	2,008	127	—	759	2,894	16,890	867	942	454	181	—	2,444	19,334
29	10,210	77	735	3,084	230	1,176	15,512	2,477	217	—	486	3,180	18,692	908	1,736	963	103	—	3,710	22,402
30	10,795	79	840	2,895	245	826	15,680	2,878	117	—	422	3,417	19,097	514	1,517	1,509	109	—	3,649	22,746
R1	11,459	115	1,070	3,305	247	391	16,587	2,882	84	—	328	3,294	19,881	3,430	1,469	1,430	120	—	6,449	26,330
2	4,734	74	508	3,670	58	599	9,643	1,996	111	0	445	2,552	12,195	544	1,342	554	73	57	2,570	14,765
3	6,247	73	735	2,817	126	801	10,799	2,797	102	84	290	3,273	14,072	1,434	749	666	68	20	2,937	17,009
4	9,762	114	1,004	5,253	528	1,136	17,797	2,840	158	83	429	3,510	21,307	3,437	833	409	30	33	4,742	26,049
5	10,377	115	866	5,137	143	794	17,432	2,792	130	94	312	3,328	20,760	2,011	501	875	88	32	3,507	24,267
6	12,980	167	1,171	5,486	357	1,108	21,269	2,821	159	70	330	3,380	24,649	1,922	374	1,022	60	146	3,524	28,173
7	13,446	183	1,074	3,229	105	850	18,887	2,642	128	54	286	3,110	21,997	1,876	356	874	51	158	3,315	25,312
累計	1,418,876	21,022	203,301	641,078	87,923	290,628	2,662,828	127,649	4,085	385	12,905	145,024	2,807,852	43,251	20,407	17,189	1,546	446	82,839	2,890,691

※観覧以外の利用者について、学校との連携事業（市内小学校の博物館活用事業）などで常設展の観覧を行った場合、観覧者の数値と重複する。なお、このほかの観覧以外の利用者として、友の会の自主事業やサークル活動への参加者、当館出版物の購入者、公式ウェブサイトやSNSの閲覧者などもあり。

(2) 令和 7 年度 月別の利用者状況

(単位：人)

月	利 用 者																				
	観 覧 者（常設展ならび企画展・特別展の観覧）													観覧以外の利用者※ （催し参加・学習協力・資料特別利用・各種照会）						総計	
	有料観覧者						無料観覧者						小計	合計	催し参加者 (主催事業)	学習協力先の参加者		資料特別利用者 (山岳図書資料館利用者含む)	各種照会者 (レファレンス)		合計
	個人			団体			小計	一般減免	市内			小計				学校 (博物館実習含む)	学校以外 の各種団体等				
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生			65歳以上	高校生	小中生										
4	1,176	17	83	170	0	17	1,463	242	13	4	37	296	1,759	32	0	101	8	14	155	1,914	
5	1,582	16	153	254	0	372	2,377	268	9	0	11	288	2,665	1,626	0	237	6	20	1,889	4,554	
6	811	7	42	252	90	83	1,285	227	9	49	74	359	1,644	39	50	47	5	21	162	1,806	
7	1,557	16	124	304	1	41	2,043	239	16	0	37	292	2,335	34	158	20	5	25	242	2,577	
8	3,019	74	423	699	10	173	4,398	474	16	0	53	543	4,941	69	7	221	7	12	316	5,257	
9	1,335	4	60	327	1	16	1,743	270	8	0	12	290	2,033	14	86	30	4	14	148	2,181	
10	1,284	31	47	331	1	40	1,734	340	18	0	10	368	2,102	10	26	76	8	14	134	2,236	
11	1,196	8	40	315	0	32	1,591	224	13	0	7	244	1,835	20	0	86	2	8	116	1,951	
12	102	0	0	47	1	6	156	38	5	1	0	44	200	7	0	39	0	3	49	249	
1	64	0	2	19	0	0	85	15	0	0	0	15	100	0	0	0	0	7	7	107	
2	620	4	26	180	0	10	840	127	8	0	35	170	1,010	0	29	17	1	9	56	1,066	
3	700	6	74	331	1	60	1,172	178	13	0	10	201	1,373	25	0	0	5	11	41	1,414	
計	13,446	183	1,074	3,229	105	850	18,887	2,642	128	54	286	3,110	21,997	1,876	356	874	51	158	3,315	25,312	
前年度	12,980	167	1,171	5,486	357	1,108	21,269	2,821	159	70	330	3,380	24,649	1,922	374	1,022	60	146	3,524	28,173	
前年度比	104%	110%	92%	59%	29%	77%	89%	94%	81%	77%	87%	92%	89%	98%	95%	86%	85%	108%	94%	90%	

※観覧以外の利用者について、学校との連携事業（市内小学校の博物館活用事業）などで常設展の観覧を行った場合、観覧者の数値と重複する。なお、このほかの観覧以外の利用者として、友の会の自主事業やサークル活動への参加者、当館出版物の購入者、公式ウェブサイトや SNS の閲覧者などもあり。

(3) 令和 7 年度の開館日数

全 275 日

※令和 7 年 12 月 8 日～令和 8 年 1 月 26 日 館内空調設備改修工事のため臨時休館

4 令和7年度予算・決算

(1) 歳入

(単位：円)

項 目	観覧料	国庫支出金 (生物多様性保 全推進支援事 業交付金)	寄附金	雑 入	合 計
当初予算額(A)	7,222,000	0	0	213,000	7,435,000
決 算 額(B)	7,792,418	725,000	1,236,000	377,298	10,130,716
比 較(B-A)	570,418	725,000	1,236,000	164,298	2,695,716

(2) 歳出

(単位：円)

項 目	一般職員 人件費	管理運営 一般経費	教育普及 事業	調査研究 事業	資料収集 保管事業
当初予算額(A)	45,593,000	167,807,000	3,346,000	220,000	422,000
決 算 額(B)	36,385,128	12,426,864	2,887,014	142,919	352,396
比 較(B-A)	△9,207,872	△ 155,380,136	△458,986	△77,081	△69,604
項 目	動植物飼育 栽培事業	ライチョウ飼育 事業	付属園整備 事業		合 計
当初予算額(A)	2,516,000	2,973,000	0		222,877,000
決 算 額(B)	2,317,803	2,521,278	0		57,033,402
比 較(B-A)	△198,197	△451,722	0		△165,843,598

5 ミュージアムカフェ・ショップ (担当：千葉悟志)

大町山岳博物館では、博物館を利用する来館者及び大町公園や東山へのトレッキングなどの利用者への利便性の向上を図ることを目的に、館内にミュージアムカフェ・ショップを設置し、飲食物の提供や商品の販売を行っている。運営にあたっては、事業者を公募し営業を行っている。

令和5年4月1日から「イイココ・インキュベーション合同会社」と契約を結び営業を行い、3年目を迎える本年度をもって契約満了。

(1) 令和7年度運営者

- ・氏 名：イイココ・インキュベーション合同会社
- ・名 称：ミュージアムカフェ・ショップ「c a f e かもしか」

(2) 契約期間

- ・令和5年4月1日～令和8年3月31日まで〔3年間〕最長3年まで更新可。

Ⅶ 関係条例規則等

1 市立大町山岳博物館条例

昭和 57 年 3 月 29 日 条例第 12 号
改正 昭和 61 年 3 月 24 日 条例第 8 号
平成元年 3 月 24 日 条例第 7 号
平成 4 年 3 月 31 日 条例第 8 号
平成 5 年 12 月 24 日 条例第 32 号
平成 12 年 3 月 29 日 条例第 13 号
平成 13 年 3 月 27 日 条例第 13 号
平成 17 年 12 月 6 日 条例第 80 号
平成 24 年 3 月 26 日 条例第 3 号
平成 26 年 3 月 28 日 条例第 8 号
平成 29 年 3 月 15 日 条例第 7 号
令和元年 12 月 23 日 条例第 32 号
令和 5 年 3 月 20 日 条例第 10 号

市立大町山岳博物館条例(昭和 29 年条例第 18 号)の全部を改正する。

(目的)

第 1 条 この条例は、山岳文化の振興及び活用並びに自然環境の保全及び共生を図るため、地方自治法(昭和 22 年法律第 67 号)第 244 条の 2 第 1 項の規定に基づき、市立大町山岳博物館(以下「博物館」という。)の設置及び管理について必要な事項を定めることを目的とする。

(設置)

第 2 条 山岳に関する資料並びにこの地方における民俗、歴史その他の資料を収集して、保管又は展示し、一般の観覧に供し、本邦における山岳文化等の普及並びにこれらの資料の調査研究を行うため博物館を設置する。

(名称及び位置)

第 3 条 博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

市立大町山岳博物館 大町市大町 8056 番地 1

(職員)

第 4 条 博物館法(昭和 26 年法律第 285 号)第 4 条の規定により、博物館に館長、学芸員その他必要な職員を置く。

2 博物館に必要な応じ顧問を置くことができる。

(観覧料)

第 5 条 博物館を観覧しようとする者は、別表に定める観覧料を納付しなければならない。ただし、次に掲げる者は、この限りでない。

(1) 小学校就学の始期に達するまでの者

(2) 大町市立学校に在学する児童又は生徒

(3) 市内に住所を有する高校生(学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)に基づく高等学校、中等教育学校の後期課程又は特別支援学校の高等部その他これらに準ずる学校に在学する者をいう。以下同じ。)

(4) 市内に住所を有する満 65 歳以上の者

(観覧料の減免)

第 6 条 教育委員会は、特別な理由があると認めるときは、観覧料を減免することができる。

(資料の特別利用)

第 7 条 博物館資料を学術研究等のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

(賠償責任)

第 8 条 故意又は過失により、博物館の資料、施設等を破損し、又は滅失したときは、教育委員会の命ずるところにより、これを原状に復し、又は損害を賠償しなければならない。

(博物館協議会)

第 9 条 博物館法第 25 条の規定により、市立大町山岳博物館協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

2 協議会の委員(以下「委員」という。)は 15 人以内とし、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

- (1) 学校教育及び社会教育の関係者
- (2) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- (3) 学識経験のある者
- (4) 公募による市民等

3 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委任)

第10条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

1 この条例は、昭和57年6月5日から施行する。

2 この条例施行の際、現に市立大町山岳博物館条例(昭和29年条例第18号)第5条の規定により委員として委嘱された者は、この条例第10条の規定により委嘱されたものとみなし、任期は、同条第3項の規定にかかわらず、昭和58年3月31日までとする。

附 則(昭和61年3月24日条例第8号)

この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則(平成元年3月24日条例第7号)

この条例は、平成元年4月1日から施行する。

附 則(平成4年3月31日条例第8号)

この条例は、平成4年4月1日から施行する。

附 則(平成5年12月24日条例第32号)

この条例は、平成6年4月1日から施行する。

附 則(平成12年3月29日条例第13号)

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附 則(平成13年3月27日条例第13号)

この条例は、平成13年4月1日から施行する。

附 則(平成17年12月6日条例第80号)

この条例は、平成18年1月1日から施行する。

附 則(平成24年3月26日条例第3号)

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成26年3月28日条例第8号)

この条例は、平成26年4月1日から施行する。

附 則(平成29年3月15日条例第7号抄)

(施行期日)

1 この条例は、平成29年4月1日から施行する。

附 則(令和元年12月23日条例第32号)

この条例は、令和2年4月1日から施行する。

附 則(令和5年3月20日条例第10号)

この条例は、令和5年4月1日から施行する。

別表(第5条関係)

種 別	区分	単位	観覧料
一般 "	大人	1人	450円
	高校生	"	350円
	小人	"	200円
団体 (30人以上の場合をいう)	大人	"	400円
	高校生	"	300円
	小人	"	150円

備考 特別の資料を展示する場合は、1,000円の範囲内においてその都度教育委員会が定める額とする。

2 市立大町山岳博物館規則

昭和 57 年 3 月 30 日 教育委員会規則第 3 号
改正 平成元年 3 月 31 日 教委規則第 3 号
平成 9 年 12 月 26 日 教委規則第 3 号
平成 12 年 3 月 30 日 教委規則第 9 号
令和 4 年 3 月 31 日 教委規則第 5 号
令和 5 年 3 月 28 日 教委規則第 2 号
令和 5 年 8 月 25 日 教委規則第 7 号
令和 6 年 3 月 25 日 教委規則第 4 号
令和 7 年 3 月 21 日 教委規則第 4 号

(趣旨)

第 1 条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和 31 年法律第 162 号)第 33 条第 1 項及び市立大町山岳博物館条例(昭和 57 年条例第 12 号。以下「条例」という。)の規定に基づき、市立大町山岳博物館(以下「博物館」という。)の管理運営並びに市立大町山岳博物館協議会(以下「協議会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(職務)

第 2 条 館長は、上司の命を受け、博物館を統括し、所属職員を指揮監督する。

2 学芸員は、館長の命を受け、博物館法(昭和 26 年法律第 285 号)第 4 条第 4 項に規定する職務を遂行する。

3 その他の職員は、館長の命を受け、職務を遂行する。

4 館長を補佐するため、副館長を置くことができる。副館長は、課長補佐又は係長相当職をもって充てる。

5 顧問は、館長の求めに応じ、博物館の企画及び運営並びに学術的な助言を行うものとする。

(休館日)

第 3 条 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、臨時に開館又は休館することができる。

(1) 毎週月曜日

(2) 国民の祝日に関する法律(昭和 23 年法律第 178 号)に規定する休日の翌日(この日が月曜日に当たるときは、その翌日)

(3) 12 月 29 日から翌年 1 月 3 日までの日(前号に掲げる日を除く。)

(開館時間)

第 4 条 博物館の開館時間は、午前 9 時から午後 5 時までとする。ただし、教育委員会が特に必要と認めたときは、これを変更することができる。

(観覧券の交付)

第 5 条 条例第 5 条の規定による観覧料の納付があったときは、観覧券を交付するものとする。

(観覧料の減免)

第 6 条 条例第 7 条の規定による観覧料の減免を受けようとする者は、市立大町山岳博物館観覧料減免申請書(様式第 1 号)を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。

(博物館資料の利用等)

第 7 条 条例第 8 条の規定により博物館の資料を利用しようとする者は、市立大町山岳博物館資料特別利用許可申請書(様式第 2 号)を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。

2 前項の規定による資料の利用期間は、30 日以内とする。ただし、教育委員会が必要と認めた場合は、延長することができる。

(入館制限等)

第 8 条 教育委員会は、次の一に該当するときは、入館を拒否し、退館を命じ、又は許可を取り消し、その他必要な措置を講ずることができる。

(1) 公の秩序又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。

(2) 管理上支障があると認められるとき。

(3) その他教育委員会が必要と認めるとき。

(資料の寄贈及び寄託)

第 9 条 博物館は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。この場合において、資料を寄贈及び寄託しようとする者は、市立大町山岳博物館資料寄贈・寄託書(様式第 3 号)を教育委員会に提出するものとする。

2 寄託を受けた博物館資料は、寄託者の請求によりこれを返還する。

3 博物館は、寄託を受けた博物館資料が災害その他不可抗力によって滅失又は損傷した場合は、損害賠償の責を負わない。

4 寄贈又は寄託を受けた博物館資料は、一般の資料と同一の取扱いをするものとする。
(資料等の滅失・損傷)

第10条 館長は、博物館の資料、施設等が滅失又は損傷したときは、速やかに教育委員会に報告し、その指示を受けなければならない。

(協議会の組織)

第11条 協議会に、委員の互選による会長及び副会長各1名を置く。

2 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。

(協議会の会議)

第12条 協議会の会議は、館長の諮問により会長が招集する。

2 協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 会議の議決は、出席委員の過半数の賛成がなければならない。

附 則

1 この規則は、昭和57年6月5日から施行する。

2 市立大町山岳博物館規程(昭和29年教育委員会規則第9号)及び市立大町山岳博物館協議会規程(昭和29年山岳博物館規程第1号)は、廃止する。

附 則(平成元年3月31日教委規則第3号)

この規則は、平成元年4月1日から施行する。

附 則(平成9年12月26日教委規則第3号)

この規則は、平成10年1月1日から施行する。

附 則(平成12年3月30日教委規則第9号)

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則(令和4年3月31日教委規則第5号)

この規則は、令和4年4月1日から施行する。

附 則(令和5年3月28日教委規則第2号)

この規則は、令和5年4月1日から施行する。

附 則(令和5年8月25日教委規則第7号)

この規則は、令和5年4月1日から施行する。

附 則(令和6年3月25日教委規則第4号)

この規則は、令和6年4月1日から施行する。

附 則(令和7年3月21日教委規則第4号)

この規則は、令和7年4月1日から施行する。

分類 番号		公開・ 非公開区分	公開・非公開 一部公開	担当者	係 長	課長補佐	館 長	教育次長	教育長	可・否
非公開（一部公開）とする部分・理由			保存区分							
			公開可能時期							

市立大町山岳博物館観覧料減免申請書

大町市教育委員会 殿

年 月 日

住 所

団体名

代表者

連絡先

下記のとおり博物館観覧料の減免を受けたいので申請いたします。
記

減免を必要とする理由	
入館年月日	年 月 日
入館代表者 及入館人員	氏名 ほか 名
減免の額	

様式第2号（第7条関係）

分類番号	公開・ 非公開区分	公開・非公開 一部公開	担当者	係長	課長補佐	館長	教育次長	教育長	可・否
非公開（一部公開）とする 部分・理由		保存区分							
		公開可能時期							

市立大町山岳博物館資料特別利用許可申請書

年 月 日

大町市教育委員会 殿

住 所 _____

団体名 _____

代表者 _____

連絡先 _____

下記のとおり博物館資料の特別利用（館内利用・館外利用）をしたいので申請いたします。

記

利用目的		
利用期間		
利用場所		
利用資料	品名（記号・番号）	備 考
輸送方法	担当者	
その他		
参考事項		

様式第 3 号（第 9 条関係）

庶務・専門員・学芸員		係 長	課長補佐	館 長	教育次長	教育長	副市長	市 長
主 務								

--

市立大町山岳博物館資料寄贈・寄託書

年 月 日

大 町 市 長
大町市教育委員会教育長 殿

住 所

(団体名)

氏 名

電話番号

下記のとおり資料を市立大町山岳博物館へ寄贈・寄託（該当に○）します。

記

資 料	品 名	数 量
備 考		

条 件

- 1 寄贈・寄託を受けた博物館資料は、既存の収蔵資料と同一の取扱いをするものとする。
- 2 寄託を受けた博物館資料は、寄託者の請求によりこれを返還する。
- 3 寄託を受けた博物館資料は、万が一の天災、その他不可抗力による滅失又は破損に対し、動産総合保険の対象物件とする。

3 大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会設置要綱

平成 17 年 7 月 7 日
教育委員会告示第 8 号

(趣旨)

第 1 条 大町市におけるライチョウ保護事業の計画を策定するため、大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第 2 条 委員会は、ライチョウの保護事業に関する計画の策定及びその他計画策定上必要な事項を検討するものとする。

(組織)

第 3 条 委員会は、委員 10 人以内で組織し、学識経験を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。

(任期)

第 4 条 委員の任期は、ライチョウ保護事業計画の策定業務が終了するまでとする。

(委員長及び副委員長)

第 5 条 委員会に委員長及び副委員長各 1 人を置き、委員が互選する。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(オブザーバー)

第 6 条 委員会にオブザーバーを置くことができる。

2 オブザーバーは、ライチョウの保護事業に関し、必要な意見を述べることができる。

(会議)

第 7 条 委員会の会議は、委員長が招集し、議長となる。

2 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。

(事務局)

第 8 条 委員会の事務局は、市立大町山岳博物館に置く。

(補則)

第 9 条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、別に定める。

附 則

この告示は、告示の日から施行する。

VIII 市立大町山岳博物館の使命

平成 23 年 10 月

1 市立大町山岳博物館創立 60 周年を機に

市立大町山岳博物館は、昭和 26 年 11 月 1 日に創立し、今年で 60 周年を迎えた。昭和 24 年の設立趣旨には「地方文化の興隆」「信州文化の粹たる山岳文化の殿堂」「中部山岳国立公園の施設」「山岳の観光案内所としての博物館」「山岳博物館の立地条件を充たす大町」があげられており、当時の地域住民の博物館建設へ寄せた熱意と献身的な活動により山岳博物館が誕生した。

大町市は、山岳博物館創立 50 周年（平成 13 年）をきっかけに、21 世紀にふさわしい山岳文化の発展と創造をめざすべく「山岳文化都市宣言」を行った。

山岳博物館を誕生させた母なる北アルプスの雄大な姿は、将来、社会情勢がいかに変化し、科学技術が進歩しようとも、今と変わらず大町市民にとって常に身近な存在であり続けるであろう。

私たちは創立 60 周年を機に、あらためて設立当初の精神に立ち返り、「山岳文化都市宣言」の基本的理念を尊重しながら、これからの山岳博物館のあるべき姿を考えていく。

2 平成 24 年度からの市立大町山岳博物館の基本理念

市立大町山岳博物館の存在意義や社会に対する使命（責務）は次のとおりである。

大町市は、「美しく豊かな自然文化の風薫る きらり輝くおおまち」をめざし、市民あるいは市内を訪れる方などのために、生涯学習の支援と推進や社会教育の充実と活性化を進めている。

これを達成するために、市立大町山岳博物館（以下、山岳博物館）は、「自然と人とが共生する「山岳文化都市」の形成につながるあらゆる活動を充実させ、地域の博物館としての機能の充実を図る。その核となる活動は、北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する調査研究を基礎として、それに関わる資料の収集・整理、保存・管理することであり、これらを活用した次のような教育普及活動を推進することである。

(1) 大町市や周辺地域の人たちのために

- ①郷土の自然や文化を見つめ直し、この地域ではこれまでどんなことがあったのか、今どうなっているのかを知り、これから将来はどうなるのかを考える場所を提供する。
- ②この地域にどのような価値があるかを知っていただき、郷土に誇りを持つことができる機会や場所を提供する。
- ③郷土の自然と文化に接し、心の豊かさを感じ、学ぶことの楽しさや大切さを味わって活動し、それを表現できるような機会や場所を用意する。
- ④豊かな自然環境を護り、自然と共存することの大切さを理解できるような場所や機会を提供する。
- ⑤博物館を中心にして、動植物園、遊歩道、園地、売店などいろいろな施設を充実させ、ここがゆっくりとくつろげて、楽しめる場所であるという考え方を大切にする。

(2) 大町市を訪れる人たちや北アルプスとその山麓地域の自然と文化を知りたい人たちのために

- ①観光客・登山者をはじめ北アルプスとその山麓地域の自然と文化について、関心を持つすべての人々の学習のきっかけをつくる手助けをする。
- ②「山岳文化都市」づくりの中核を担う施設として、北アルプス周辺のフィールドへといざなう窓口となる。
- ③大町市をはじめ、県内外にひろく「自然と人とが共生する山岳文化」の情報を発信し、さらなる山岳文化の創造を進める。

3 平成 24 年度からの市立大町山岳博物館の基本方針

(1) 調査研究の推進

博物館の立地条件を生かし、学術研究や社会教育機関としての機能を高めるため、国・県や各種研究機関と連携した調査や研究を推進する。

①調査・研究の分野・範囲

北アルプスを中心とした山麓から高山までの地域と、それに関連した人文・自然科学分野の調査研究に重点をおく。

②情報収集

調査・研究のため、また利用者のさまざまな要求に応え、多くの人に資料や情報を利用していたできるように、国内外から多くの情報を集める。

③体制づくり

国や地方自治体、大学などの各種研究機関や市民と連携した調査研究を進める。

(2) 資料の収集・整理、保管の推進

北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する情報発信の核となるよう、また、教育普及活動に活用できるよう、博物館で取り扱うことがらを定めて、それに沿った資料・情報の収集・整理、保管を推進する。

①収集・整理の推進

早急に記録にとどめ、保存が必要と考えられる資料を最優先に収集し、記録、整理を行い、山岳博物館における情報発信の核とする。

②収集の範囲

山岳、特に北アルプスを中心とした山麓周辺から高山までの地域とそれらに関連した海外の人文・自然科学分野に関する資料（有形・無形を含めた事物や事象）の収集を行う。

③保存・管理の推進

収集された資料は適正に管理された環境において保管され、品質の劣化を防ぎ、将来の資産とする。

(3) 調査研究の成果および収集資料の活用

調査・研究の成果や博物館の資料を十分に活かした活動を進める。

①調査・研究の成果活用

調査研究の成果を常設展示や企画展示に反映させ、各種の教育普及活動に有効活用する。

②収集・保管の成果活用

収集した資料を対象に調査研究を進めるとともに、展示の基礎資料とし、各種の教育普及活動にも有効活用する。

③保護・保全への貢献

調査研究の成果は、地域において学術的・歴史的価値の高いもの、あるいは環境・景観等の保全・保護に役立てる。

④体制づくり

山岳の自然と文化に関する各種情報を集め、山岳情報のネットワークをつくる。

(4) 教育普及活動の推進

地域の恵まれた自然・文化に関するフィールドや博物館の資料・情報をわかりやすく興味を持てるように示す。また、それを通して新しい発見、驚き、関心が得られるよう内容の工夫に努め、新たな発想、創造へと結びつくような活動を推進する。

①生涯教育・社会教育の推進

博物館の資料や、山麓から高山にかけての恵まれたフィールド環境を生かし、子供から大人まで幅広く参加できるような魅力ある活動を展開する。そして、それらの活動が、知的欲求を一時的に充たすだけでなく、生涯にわたって持続できるきっかけづくりになるよう内容の工夫に努め、新たな発想、創造へと結びつくような活動を推進する。

②学社連携・融合の推進

学校と博物館を結んだ事業を積極的にを行い、児童・生徒・(先生)の学習の場とし、関心を持つきっかけづくりをする。

③協働の推進

国や県をはじめとする大学や研究所・博物館・動植物園など、国内外の機関と連携した活動を展開するとともに、地域の情報を取り入れて市民との協働の活動を推進する。

(5) 付属園（動植物園）の充実

付属園（動植物園）では貴重な野生動植物を守り、増やしたり、研究をしたりしながら、北アルプスの山麓から高山までの生物を栽培・飼育し、生きている姿を見てもらおうという考え方を大切にする。

①生体展示

生きている姿と命の大切さがわかる展示をめざす。

②教育普及への活用

飼育栽培している動植物を活用した教育普及活動をする。

③傷病鳥獣の救護

傷ついたり病気になった野生動物を救護し、野生に戻す努力をするとともに、野生に戻せない野生動物の長期飼育をする。

④希少種の保護

希少野生動植物の飼育・栽培、繁殖・増殖と調査研究に努める。

⑤施設整備の充実

付属園の目的を達成させるため、施設の整備を順次進める。

IX 施設

1 敷地面積

41,575.69 m²（都市公園としての開設面積）市有地：38,493.15 m²、民有地：3,082.54 m²

2 本館建物

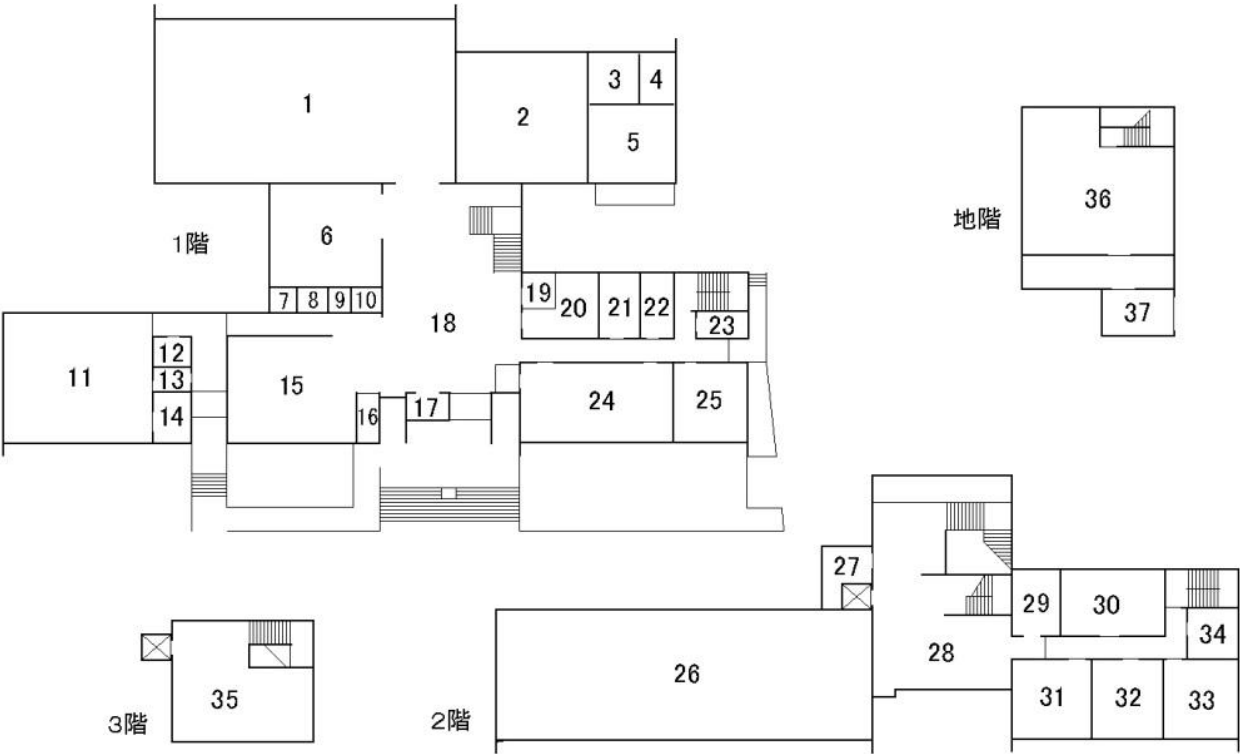
(1) 構造：鉄筋コンクリート造 地上3階 地下1階

(2) 竣工：昭和57年5月31日竣工

(3) 面積：建築面積1,280.9 m² 延べ床面積2,207.04 m²

(4) 床面積表 (単位：m²)

1階 1,244.9				2階 686.14			
名 称	面積	名 称	面積	名 称	面積	名 称	面積
1 展示室	290.0	14 準備室	9.1	26 展示室	290.0	31 研究室	34.8
2 収蔵庫	104.0	15 カフェ・ショップ	74.2	27 パッケージ室	14.9	32 資料庫	34.8
3 パッケージ室	16.4	16 授乳室	6.7	28 展示室	113.6	33 図書室	34.8
4 燻蒸室	12.3	17 荷物置場	14.4	29 男子トイレ	18.2	34 資料庫	16.0
5 荷解作業室	41.3	18 ホール	116.9	30 収蔵庫	42.1	廊下階段等	86.9
6 特別展示室	70.4	19 多目的トイレ	6.5	3階 116.8			
7 EV機械室	6.0	20 女子トイレ	22.5	名 称	面積	名 称	面積
8 倉庫	3.5	21 書庫	16.7	35 展示室	94.6	階段	22.2
9 倉庫	3.0	22 更衣室	14.6	地階 159.2			
10 E.V	5.1	23 倉庫	8.8	名 称	面積	名 称	面積
11 講堂	110.2	24 事務室	69.6	36 機械室	118.8	階段	17.4
12 トイレ	8.1	25 休憩室	32.5	37 車庫	23.0		
13 倉庫	5.4	廊下、階段等	176.7				



3 付属施設

(1) 付属園（付属動植物園） ※本館隣

①施設の概要 敷地面積：39,875.92 m²

②建物の概要（建設年度順） ※B-8・10については放飼場の面積を除く

施設名・構造・建築面積（築年度）			施設名・構造・建築面積（築年度）			施設名・構造・建築面積（築年度）		
B-1	CB造	28.20(S38→S55 移設)	B-8	CB造	26.92(H1)	A-10	木造	52.00(H21)
B-2	CB造	14.79(S38→S55 移設)	B-9	CB造	34.83(H3,4)	A-11	木造	42.00(H27)
B-3	CB造	22.62(S53)	B-10	CB造	5.20(H3)	A-12	木造	33.00(H27)
B-4	パネル造	39.63(S54・55)	B-11	鉄骨造	67.65(H4)	A-13	木造	19.13(H27)
B-6	パネル造	18.99(S60,61)	B-12	鉄骨造	86.44(H7)	A-14	木造	146.16(H29)
B-7	CB造	46.50(S61)						



(2) 山岳図書資料館 ※本館隣

①施設の概要

- ・構造・規模：鉄骨造 地上2階
- ・竣工・開館：平成24年3月2日竣工 平成24年4月20日開館
- ・各面積：敷地面積498.21 m² 建築面積59.96 m²
延床面積117.45 m² (1階58.725 m²、2階58.725 m²)
- ・設備・備品：ハンドル式移動書架18基 固定式書架(各種)29基 ほか

X 利用案内（令和7年3月31日現在）

- 1 開館時間 4～11月 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
11～3月 午前10時～午後4時（入館は午後3時30分まで）
- 2 休館日 毎週月曜日、国民の祝日・振替休日の翌日、年末年始（12月29日～1月3日）
※月曜日が祝日・休日の場合は開館し、翌日休館
- 3 交通 公共機関 JR信濃大町駅から タクシー5分、徒歩25分
車 長野自動車道安曇野ICから 40分
（北アルプスパノラマロード経由 大町・白馬方面へ28km）
※博物館前に無料駐車場（普通車30台・大型バス5台収容）
- 4 観覧料

区 分	大 人	高校生	小・中学生
個 人	450 円	350 円	200 円
団 体（30名様以上）	400 円	300 円	150 円
- 5 ユニバーサルデザイン
入口スロープ、入口階段手すり、玄関自動ドア、多目的トイレ、授乳室、車イス対応
エレベーター、貸出用車イス・ベビーカー、アシスタンスドッグ同伴可能
- 6 所在地および連絡先
〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1
（標高：766m、経緯：北緯36度30分、東経137度52分）
TEL：0261-22-0211／FAX：0261-21-2133
E-mail：sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL：https://www.omachi-sanpaku.com

市立大町山岳博物館 令和 7 年度 年報

2026(令和 8)年 7 月 25 日 発行

編集・発行 市立大町山岳博物館

〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1

TEL:0261-22-0211 / FAX:0261-21-2133